

云ふ。約象艮を門となし、下卦坎を宮となし又鬼となす象より取。◎「假」互體震の象。◎「大川」下卦坎の象。◎「利涉」上卦の巽木下卦の坎水の上に浮べる象を取りて云ふ。

(意 義) 凡そ物事は皆、凝滞すれば則ち塞がり、解散すれば則ち通ずるものである。即ち此卦解散の象なるが故に、これを「渙亨」と云つたのである。而して、民は國の本であるから、王道の興廢如何と云ふことは、一に民心の如何に係るものである。蓋し、民心聚まる時はその國興り、民心散ずる時はその國衰ふるものである。而して民心を聚めてこれを化服せしむるの道は孝を以て第一とするものであるが、孝道の極は祖先の靈を祭ること厚きに存するものであつて、その靈を祭ること至誠至敬なれば、祖先の靈が聚まり來るものである。故に王たるものは、宗廟の祭祀を重んずるものであるが、今渙の時、祖先の靈が渙散せんとする時であるから、王者たるものはこれを聚めることに力を盡さねばならぬのであつて、王自ら宗廟に至り至誠至敬の念を盡して、祖先の靈を感格來臨せしむることが急務であり要道である。即ち王たるものが斯くの如くならば、祖先の靈を感格せしめてこれを聚めることが出來、従つて民心を徳化して與國の功を遂げ得るに至るものである。即ちこれを「王假有廟」と云つたのである。次に「利涉大川」と云つたのは、別義別象を取つたのであつて、今渙の時、巽木坎水の上に浮びて船舶遠きに行くことを得、殊に春風冬水を解消するの時であるから、大川を渉るの險を冒して利しきが如く、大事を爲して功を遂げ得べきことを示したのである。而して祖先の靈を祭祀することも、亦大川を渉ることも、共に貞正の道に従ひてこれを行はざれば、却て神を瀆し、險難に陥ることを免れぬものであるから、これを「利貞」と云つて戒しめたのである。

此卦の要旨は卦意の解説によつて自ら明かてめる。

(占 斷)

◎運 勢 此卦解散水釋の象なるは、辛勞艱難事解通して安心悦びを得る時であるが、又一面に物事に處して油断放漫に流れて、失敗不利を招く憂ひあれば、「利貞」と戒しめある如く、心身を緊縮して此過ちを招かざる心掛けが肝要なる時である。尙卦意象より見て、人の救助によりて艱難を脱する象、一身上の變化、旅立等の象がある。

◎願望・金談・賣買 卦辭に「渙亨」とある如く卦意象より見て、何れも困難なるもの解けて功利を遂げ得る象なるも、一面に於いて安心油断して、放漫に流れ努力を怠りて功利を遂ぐべきものを、失敗不利に陥らしむる憂ひあれば、「利貞」と戒しめある如く、誠實の心掛けを忘れざること肝要なり。

◎相 場 此卦解散の象なるは、相場崩落する象なり。

◎縁 談 亦「渙亨」とある如く、卦意象より見て、困難なりし縁談故障解けて纏る象なるも、禮節を失し軽々しく運ぶ時は破れを招く惧れあれば注意を要す。又縁としては初め故障苦勞あるも、末は幸福を得るに至る縁なり。

◎子 寶 亦卦意象より見て、子供運初めに苦勞あるも、末には安心幸福を得る象なり。而して解散の象あるは、兒女と別して暮すか、死別する憂ひあることを示すものなり。姪姪此卦巽の長女、坎の中男の上にあるは、男兒の象なり。

◎縁運、家庭運 亦卦意卦象より見て、縁運家庭運共に初めは故障辛勞を免れざるも、後には艱苦解けて幸福安泰を得る象なり。然し「利貞」とある戒しめを忘れ、貞正篤實の心掛けを失ふ時は、縁運上夫婦間の別離を見、家庭上離散の不幸を招く恐れあれば戒慎を要す。

◎壽命、病氣 此卦艱難解消の象なるは、壽命上初めには健康障害の象あり、又病氣重態の象あるも、能くこれを脱して、壽を保ち、全快を得る象なり。然し「利貞」とある戒しめを忘れ、不攝生不養生に流るゝ時は、運氣を逆轉して短命に終り、病氣恢復の望みなきに至る象あれば注意すべし。

◎待人、走人、失物 此卦解散の象なるは、待人來らず、走人遠方に走りて判明せず、失物外に出て手に歸らざる象なり。方角、上巽は東南、下坎は北、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立 「渙亨」とあれば出て、可なるも、「利貞」と戒しめあれば、旅中慎しみを忘れざること大切なり

◎争事 此卦解消水釋の象なるは、双方の感情解けて和解を見る象なり。

◎就職、試験 「渙亨」とあるは、就職難り、試験好成绩を得る象なるも、「利貞」と戒しめあれば、油斷安心に流るゝ時は、折角纏りたるものを破り、試験將來に於いて不成績を招く憂ひあれば戒慎すべし。

◎開業「渙亨」とあれば進みて吉なるも、「利貞」と戒しめある如く、堅實の方針を失はざる心掛け肝要なり。

◎轉業、移轉 此卦解散の象なるは、何れも轉換の已むを得ざる象なることを示すものなるが、「利貞」とある如く、無理をせずして慎重に轉ずること肝要なり。

◎天候 此卦解散の象なるは、天候轉換して良好に向ふ象にして、風水上を行く象なるは、風強きことを示す。

初六 用拯馬壯 吉。

(文辭讀方) 用るて拯ふ。馬壯なり、吉なり。

(象 義) ◎「拯」救ふなり。助くるなり。約象良を手となし、互體震を起すとなす。即ち救助の象なり

◎「馬壯」下卦坎を美脊の馬となし、互體震を進み行くとなす。馬壯なる象なり、而して馬は九二に指す。(意 義) 初六は陰柔不中正を以て渙の初めに居り、且坎險の底に居るものである。これ即ち渙散の初めで、幽僻に在りて鬱結未だ散せず、身の險み切なるものであるが、陰柔微力にして自らこれを脱すること能はざるものである。然るに幸にして上九二に比して居り、九二は剛中にして壯なる馬の如きものである。故に速に往きてその力を借り、救助を求むれば、身の險みを脱して渙散の吉を得ることが出来るものである。即ちこれを「用拯馬壯 吉」と云つたのである。要するに此爻、象傳にも「初六之吉順也」とある如く、人の艱難に處するに當つては、柔順の心を以て才力あるものに救助を求め、これを脱するの道を講ずるにあることを説き教へたのである。

(占 斷)

◎運勢 此爻陰柔不中正を以て、渙の初め且坎險の底に居るは、運氣艱難にして心身の悩み甚しく、然も

これを脱出する才力なき象である。斯くの如き時に當りては、宜しく初六が剛中の九二に比して吉を得るが如く、柔順の態度を以て速に才力ある人に救助を乞ひ、艱難を脱するの道を講ずべきで、然らば今換の時なれば、艱難解散して悦びを得るに至るものである。

◎願望、金談 爻意爻象より見て、何れも微力にして自身の力にては功を遂げ難き象なり。宜しく「用拯。馬壯。吉」とある如く、才力ある人の援助を求むべし。然らば成就する望みあり。

◎賈 爻辭に「馬壯。吉」とあるは、優柔不斷に流るれば商機を失する象なり。宜しく敏速に進むべし。

◎相場 此爻陰柔を以て換の初め且坎險の底に居るは、相場不勢の象なり。

◎縁談 此爻縁の初めに居り、且坎險の底に居り、鬱結散ぜざる象なるは、縁談停滯して順調に運ばざる象なり。宜しく剛中九二の助けを得て吉なるが如く、目上の有力なる人に依頼して運ばゞ故障解けて纏るべし。又縁としても初めは故障あるも、末は吉を得べし。

◎子 實 此爻陰柔不中正を以て最下に居り、坎險の底に沈めるは、兒女才力乏しく身體虛弱にして、鬱結散ぜずして險みあるが如く、辛勞多き象なり。宜しく強固なる意志を以て養育し、善導に努むべし。然らば「用拯。馬壯。吉」とある如く、末には幸福を見るに至るべし。妊娠此爻陰柔にして、變兌を少女となすは女兒なり。

◎縁 運 此爻換の時に當り、陰柔を以て最下に居り、鬱結散ぜざる象あるは、男女共に縁運上故障辛勞を免れざる象なり。然し「用拯。馬壯。吉」とあれば、心掛け次第にて、これを打開して幸福を得るに至る望

みあり。宜しく初六が順にして吉を得るが如くなるべし。

◎家庭運 亦此爻陰柔不中正を以て換の最下に居り、坎險の底に沈みて、鬱結散ぜざる象あるは、微運凝滯せる家庭に生れ、才力乏しくして艱難を見る象なり。宜しく初六が剛中九二の助けによりて吉を得るが如く、有力なる目上の人に頼りて、氣運の打開に努むべし。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、身體虛弱、病狀停滯の象なり。宜しく初六が順を以て吉を得るが如く、攝生養生を守り、生活を規則正しくして健康長壽を計り、病氣の恢復を期すべし。

◎待人 此爻順を以て九二に比し、吉なる象あるは、待人來る象なり。

◎走人 此爻鬱結未だ散ぜざる象なるは、遠方に走らざる象にて、「用拯。馬壯。吉」とあるは、手遅れせずして早く探さば判明する象なり。下坎は北、變兌は西、その方角を尋ぬべし。

◎失物 此爻最下に居り、坎險の底に沈めるは、何かの下になり居るか、何所かへ陥り居れる象なり。「用拯。馬壯。吉」とあれば、機を失はず、早く探さば出づべし。方角走人に同じ。

◎旅立 爻辭に「用拯。馬壯。吉」とあるは、時機を失せずして早く出づるを吉とする象なり。

◎争事、就職 此爻剛中九二に救助を求めて吉を得るは、争事才力ある人に依頼して進まば、有利に解決し就職目上の有力者に依頼せば調ふ望みあり。然し鬱結未だ散ぜざる象あれば、何れもなか／＼困難ありて長引くことを覺悟すべし。

が如く、良師を求めて勉強し、成績の向上を計るべし。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「用拯馬壯。吉」とある如く、何れも進みて氣運の轉換を計るべし。

◎天候 此爻陰柔不中正を以て渙の最下、坎險の底に居り、鬱結散ぜざる象なるは、天候不良の象なり。

九二 渙奔其机、悔亡。

(爻辭讀方) 渙のとき其の机に奔らば、悔亡ぶ。

(象 義) ◎「机」身を凭せかけて安んずるもの、九五を指す。上巽を木となし、下坎を揉むるとなし、互震を足となし、約象艮を肱となす。即ち木を曲げて足となし、肱その上に據るは机の象なり。又上巽の形象。◎「奔」走ること特に迅きを云ふ。互體震を足となし、又動となすの象。◎「悔」下坎の象。◎「亡」九二變すれば互體坤となり、安靜の象となるより云ふ。

(意 義) 此爻剛中の徳あるも正を得ず、坎險の主となれるは悔いあるもので、即ち身に險みあるものであるが、渙散の時必ずその身を安地に置き、然る後に互解渙散の難を救ふべきであるから、九二たるもの、宜しく速に應爻なる剛健中正の九五に赴きてその助けを求むべきであつて、然らば九五は同剛なるも、今渙の時であるから同徳相應じて解散の難を救ひ、九二は悔亡びて身の險みを脱することが出来るものである。即ちこれを「渙奔其机、悔亡」と云つたのである。要するに此爻、九二の象を以て、渙の時に處する道を説き示したのである。

(占 斷)

◎運勢 此爻渙の時に當り、不正にして坎險の主たるは、運氣艱難に處する象なるが、剛健中正なる九五の應與によりて悔亡ぶるが如く、速に目上の才力ある人に救助を求むる策を講ずべく、然らば能く艱難を脱して安泰を得るに至るものである。

◎願望、金談、賣買 此爻渙の時に當り、坎險の主たるは、何れも故障困難に遭遇する象なり。然し「渙奔其机、悔亡」とある如く、九五の如き目上の有力なる人に依頼せば、願望金談成就の望みあり、賣買働きあるもの、助けを求めて進まば、故障困難を排し、相當の利を得る望みある象なり。

◎相場 此爻渙の時に當り、坎險の中に居りてその主たるは相場今安き象にて、變卦觀は風地上を行く象なれば、先行き波瀾を示すべし。

◎縁談 此爻渙の時坎險の主となり、險みある象なるは、縁談故障ありて行悩むことを示す。然し「奔其机、悔亡」とある如く、九五の如き目上の有力なる人に依頼し、時機を失せざる様迅速に運ばば、纏る望みあり。而して「悔亡」とあれば、縁としては初め故障苦勞あるも、末には吉を得べし。

◎子實 亦此爻渙の時坎險の主となり險みあるは、初め子供に就きて苦勞あるも、「悔亡」とあれば、末には苦勞解けて悦びを得べし。妊娠此爻剛中にして、中男の象坎の主たるは、男兒なり。

◎縁運、家庭運 爻意爻象より見て、初めは縁運家庭運共に苦勞艱難を免れざるも、「悔亡」とあれば、末には艱苦解けて安泰を得るに至る象なり。

◎壽命 亦交意交象より見て、初めは健康上故障を免れざるも、「悔亡」とあれば、後には健康となりて壽を保つ象なり。

◎病氣 此交坎險の中に陥りて險みある象なるは、病氣重態の象なるも、「奔其机、悔亡」とある如く、剛健中正九五の如き名醫にかゝり、手遅れせずして治療せば、全快の望みあり。

◎待人 此交九五に應與を求め、悔亡ぶるもの、待人來るべし。

◎走人、失物 交辭に「渙奔其机、悔亡」とあるは、手遅れせずして敏速に捜査せば、走人判明し、失物出づる望みある象なり。尙坎中に陥れるは、走人家出先にて艱難に遭遇し居り、失物何所かへ落込み居る象なり。下坎は北、變坤は西南、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職 交辭に「渙奔其机、悔亡」とある如く、交意交象より見て、旅立躊躇せずして速に出づるを吉とし、爭事才力ある人に依頼し、迅速果斷に進むを利とし、就職目上の有力なる人に依頼して早く運ぶ心掛け肝要の象なり。

◎試験 此交渙の時に當り、不正を以て坎險の中に居り、險みある象なるは、成績不良の象なり。

◎開業、轉業、移轉 交辭に「渙奔其机、悔亡」とある如く、交意交象より見て、時機を失せずして速に進むを吉とする象なり。

◎天候 此交坎險の中に陥れるは、天氣不良の象にて、變卦觀となれば風地上を行く象なれば、後風加はるべし。

六 二 渙其躬。无悔。

(交辭讀方) 其の躬を渙す。悔無し。

(象義) ◎「躬」約象良の象。

(意義) 此交陰柔不中正を以て、下卦坎險の極に居るは、その身に險みあるものであるが、全卦中獨り上九應爻の助けあるものであり、且坎險の終りて、上卦巽風に接するを以て、險難憂苦渙散されて、悔なきを得るものである。故にこれを「渙其躬。无悔」と云つたのである。蓋し險難の世、險難の事、一様に非ず。難を基するものあり、難を爲すものあり、難を救ふものあり、又難に遭ふものあり、此交即ち難を渙散するものである。

(占斷)

◎運勢 此交陰柔不中正を以て坎險の極に居るは、艱難に處して憂苦ある象なるが、上九應爻の助けあり且上卦巽風に渙散されて悔なき象あるは、目上の人の助けによりて、艱難憂苦を脱して悦びを得る象である◎願望、金談、賣買 交辭に「渙其躬。无悔」とある如く、交意交象より見て、何れも初めは故障困難あるも、有力なる助けを得てこれを排除し、功利を遂げ得る象なり。

◎相場 此交陰柔を以て坎の極に居り、「渙其躬」とあるは、相場下落する象なり。

◎縁談 交意交象より見て、初め故障あるも、目上の人の助力によりて纏る象なり。又縁としても「无悔」

とあれば良縁の方なり。

◎子 寶 此爻坎險の極に居るは、兒女に就きて苦勞ある象なるも、「渙其躬。无悔」とあるは、後には艱苦解けて幸福を得る象なり。姪姪此爻陰柔にして、變異を長女となすは女兒なり。

◎縁運、家庭運 此爻渙の時に當り、陰柔不中正を以て坎險の極に居るは、縁運家庭運共に、艱難憂苦を免れざる象なるも、「渙其躬。无悔」とあるは、艱苦解けて末には幸福を得る象なり。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、壽命上初めは健康障礙を免れず、病氣重態の象なるも、「无悔」とある如く、能くこれを脱して健康長壽を得、病氣全快を得る象なり。

◎待 人 此爻全卦中獨り上九に應じ、悔なき象あるは、待人來る象なり。

◎走人、失物 此爻險難を脱して悔なきを得る象なるは、走人判明し、失物出づる象なり。下坎は北、變異は東南、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事 爻辭に「渙其躬。无悔」とある如く、爻意爻象より見て、旅立出でて吉にして、爭事目上の援助によりて有利に解決する象なり。

◎就職 此爻上九の應與を得、上卦巽風に渙散されて「无悔」象あるは、目上の引立によりて成就する象なり。

◎試験 爻辭に「无悔」とあるは、好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻辭に「无悔」とあるは、何れも進みて吉なる象なり。

◎天 候 此爻陰柔不中正を以て、陰卦坎の極に居るは、天氣不良の象なるも、坎險渙散の象あるは良好に向ふ象にて、變卦巽は巽風相重る象なれば、風出づべし。

六 四 渙其群。元吉。渙有丘。匪夷所思。

(爻辭讀方) 其の群を渙す。元に吉なり。渙して丘有り。夷の思ふ所に匪す。

(象 義) ◎「群」衆の義なり。諸爻を指す。◎「丘」衆大の義なり。約象艮の象。◎「夷」常と同義なり初六を云ふ。◎「思」坎の象。

(意 義) 此爻柔を以て正に居り、坎險を解散する上卦巽風の主にして且成卦の主となり、宰相の位に在りて上九五の君に正比するものである。これ渙の時に當りて、天下萬民の險難を渙散する大功臣にして、君の寵遇厚きもので、大善の吉なるものである。故にこれを「渙其群。元吉」と云つたのである。斯くの如く六四は、天下萬民の險難を渙散するものであるから、その徳澤に感じて來り聚るもの大なること、恰も丘陵の高大なるが如くである。故にこれを「渙有丘」と云つたのである。それ六四の功德斯くの如くであつて、その大作用、大功業は、初六の已れ獨りを救はんとするが如き常人の志に非ずして、英雄偉人の大志である。故にこれを「匪夷所思」と云つたのである。要するに此爻、渙の時に當つて、坎險を救ふの主であつて、その功德の大なることを讚美したのであるが、これを人事に取れば、天下萬民の艱難を救ふ所の、大偉人、大英雄に當るものである。

(占 斷)

- ◎運 勢 此爻換の時に居り、天下の艱難を渙散して大功業を立つる英雄の象である。即ち此爻を得たる時高徳賢才を備へて人の上に立ち、諸事大功を遂げて衆望聚まり、運氣盛大の象である。
- ◎願望、金談、賣買 爻辭に「渙其群。元吉。渙有丘」とある如く、爻意爻象より見て、願望金談順調に成就し、賣買大利を擧ぐる象なり。
- ◎相 場 此爻陰を以て柔に居り、其の群を渙する象あるは、今相場安き象なるも、大功を立て、運氣盛大なること丘陵の大なる如き象あるは、先行き上る象なり。
- ◎縁 談 爻意爻象より見て、順調に纏り、又象としても「元吉」とある如く大吉の縁なり。
- ◎子 寶 此爻大功業を立つる高徳賢才の英雄たる象あるは、傑出せる兒女を持ち、大成功を見て幸福なる象なり。妊娠此爻柔正にして、長女の象異の主たるは、女兒なり。
- ◎縁運、家庭運 爻辭に「元吉」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に抜群の連合に添ひて幸福大なる象にて、家庭運又盛大の家に生れ、才力德行備りて益家運を興隆する象なり。
- ◎壽命、病氣 亦爻意爻象より見て、健康長壽にして、病氣全快疑ひなきこと説明の要なし。
- ◎待人、走人、失物 爻辭に「元吉」とある如く、此爻坎險解散して盛運の象あるは、待人來り、走人失物直に判明して悦びある象なり。上巽は東南、變乾は西北、その方角を尋ねべし。
- ◎旅立、爭事、就職、試験 亦爻意爻象より見て、旅立大吉、爭事勝利、就職成就、試験優秀の成績を得る象なり。

象なり。

- ◎開業、轉業、移轉 爻辭に「元吉」とある如く、爻意爻象より見て、何れも進みて大吉なり。
- ◎天 候 此爻陰を以て正を得るは、今天候不良の象なるも「渙其群」とある如く、坎險を渙散する象なるは、天候轉換して良好に向ふ象なり。

九 五 渙汗其大號。渙王居无咎。

(爻辭讀方) 渙のとき其の大號を汗にす。渙のとき王居りて咎無し。

(象 義) ◎「汗」下卦坎の象。◎「大號」大命の意、大は九五陽剛の象、號は上卦巽の象。◎「王」九五を指す。◎「居」九五王位の象。◎「无咎」九五中正を得るの象。

(意 義) それ天下の憂苦は仁政を得て解散し、一身の邪熱は汗を發して散するものである。今渙の時に當りて、九五が剛健中正を以て、坎險を渙散する異體の中に居るは、仁君がその明徳を以て天下の憂苦を解散する象である。故にこれを「渙汗其大號」と云つたのであるが、これ即ち王者が天下を以て一身となしその憂苦を解散する爲に苦慮焦思し、心汗淋漓たる貌に喩へ、又綸言汗の如しとある如く、天子の命令は一たび出づれば再び反らざるに喩を取れるもので、その喩ふること最も切なりと云ふべきである。而して今幸に六四の賢明なる宰相が君側にありて、その柔正の徳を以て能く天下萬民の艱難を解散する大任を全ふするものである。故に九五の君たるものは、大命を宰相に傳へ、徳化風教を天下に布き、自身は垂拱して王位に

居りて、敢て君位を辱むることなきものである。故にこれを「渙王居无咎」と云つたのである。而して單に「无咎」と云つて吉と云はない所以は、天子の天下に發する大命は、重大にしてこれを輕々しく發すべきものでないから、暗にその輕舉妄發に流れぬやう戒めたが爲である。要するに此爻、九五の剛健中正の徳を讚美して、これを以て天下の艱難を解散する君主の明徳を現したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛健中正を以て君位に居るは、才力徳行を備へて人の上に立つ象にて、その六四の賢相に任じて、能く天下の艱難を解散する象あるは、有能なる部下を用ゐて大功を遂げ、衆望を得て運氣盛大を見る象である。

◎願望、金談、賣買 此爻剛健中正を以て、異位に居り、天下の艱難を解散する君主の象なるは、才力徳行備りて衆望厚く、願望金談順調に成就し、賣買大利を擧げ得る象なり。

◎相 場 此爻剛健中正を以て君位の高きに居るは、相場強硬の象なり。

◎縁 談 爻意爻象より見て、順調に纏る象にて、又象としても「无咎」とあれば良縁なり。

◎子 實 此爻剛健中正を以て君位に居り、天下の艱難を解散する象なるは、身體強健にして才力徳行を備へ、大いに成功する兒女を持ちて幸福の象なり。妊娠此爻陽剛中正を以て君位に居るは、男兒なり。

◎縁運、家庭運 爻意爻象より見て、男女共に縁運吉祥幸福にして、特に此爻剛健中正にして明君天下を救ふの象あるは、女子の才力徳行を備へて大成功を見る夫に添ふ象あり。又家庭運としても、貴富の家に生れ

て才力徳行備り、功を立て名を擧げ、益々家運の盛大を致す象なり。

◎壽 命 此爻剛健中正にして、王威盛大の象あるは、健康長壽の象なり。

◎病 氣 此爻明君天下の坎險を解散する象あるは、名醫の力にて全快する象なり。

◎待人、走人、失物 爻意爻象より見て、待人來り、走人失物判明すること説明の要なし。上巽は東南、變良は東北、その方向を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦爻意爻象より見て、旅立大吉、爭事勝利、就職成就、試験優秀の成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻明君天下の坎險を解散して、威徳盛んなる象なるは、何れも進みて吉利を得る象なり。

◎天 候 此爻陽剛中正にして、坎險を解散する象なるは、天氣良好なるか、今不良ならば快晴に向ふ象なり。

上 九 渙其血。去逖出。无咎。

(爻辭讀方) 其の血を渙す。去つて逃れ出づ。咎無し。

(象 義) ◎「血」此爻變じて坎となれば血の象あり。血は應爻六三を指す。◎「逃」惕るなり。又變坎の象。◎「去、出」共に此爻卦極にあるを以て云ふ。



(意 義) 此爻不正を以て渙の極に居り、他の諸爻は係應する所なきに、獨り下卦坎險の極にある六三に應じて居るものである。即ち渙の極に居るが故に鬱結の弊害積累するものであり、六三に應ずるが爲に危難あり、不中正なる爲に徳を缺くものである。故に渙の時に當つて、その坎險を渙散するに甚しく勞苦し、艱難危険ありて傷害を招くの懼れあるものである。故にこれを「渙其血」と云つたのである。然し異に體して順なる爲に、能く懼れなくして艱難危険を去り出て、傷害の憂ひを免れ、終に能く渙散の功を遂げて咎なきを得るものである。故にこれを「去逃出。无咎」と云つたのである。要するに此爻、上九の渙の時に處し艱險の懼れあるも、順徳ある爲に能く渙散の功を遂ぐるものなる象を説き示したのであるが、人も亦順徳を以て懼れ慎しめば、能く艱難危険を脱することを得て功を遂ぐべきものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻不正を以て渙の極に居り、坎險の極に在る六三に應じて「渙其血」の象あるは、艱難危険の運氣に處する象なるも、爻意に示す如く、順徳を守りて懼れ慎しめば、「无咎」とある如く、能く艱難危険を免れて無事安泰を得るに至るものである。

◎願望、金談、賈買 爻辭に「渙其血」とあるは、願望金談非常に困難にして、賈買甚しき故障危険に遭遇する象なるも、爻意に示す如く、懼れ慎しみて進まば、「无咎」とある如く、何れも功利を遂げ得る望みなきに非ず。

◎相場 此爻陽剛を以て卦極にあるは、今相場高き象なるも、本來陰位にしてこれ以上進むべき所なく、

變卦困となるより見て、先行き下るべし。

◎縁 談 爻意爻象より見て、故障ありて縁談の成立非常に困難なる象なるも、穩かなる態度を以て進まば成立絶望には非ず。縁としても初めは故障あるも、「无咎」とある如く、忍耐を守らば末には吉を得べし

◎子 實 此爻下六三に應じ、「渙其血」とあるは、兒女に就きて甚しき苦勞ある象なるも、異順に體して渙散の功を遂げ、咎なきを得るは、忍耐自重して兒女の養育に盡し、且圓滿を計らば末には幸福を得るに至るべし。妊娠此爻陽剛にして、變坎を中男となすは男兒なり。

◎夫 運 爻辭に「渙其血」とあるは、夫運悪しく不幸辛勞を見る象なるも、異順に體する爲に咎なきを得るは柔順の道を守りて忍耐せば、末には幸福を得を望みあり。

◎妻 運 此爻不正にして坎險の極に居る六三に應じ、「渙其血」象あるは、不貞なる女を妻として不幸辛勞を見る象なり。

◎家庭運 爻意爻象より見て、「渙其血」とある如く、家庭運悪しく艱難不幸甚しき象なるも、異順に體して咎なきを得る象あれば、順徳を守りて忍耐せば末には幸福を得るに至る望みあり。

◎壽命、病氣 爻辭に「渙其血」とあるは、健康上故障多く、病氣危険の象なり。然し「去逃出。无咎」とあれば身を慎しみて攝生養生を守らば、相當のを保ち、病氣全快の望みなきに非ず。

◎待 人 此爻全卦中獨り六三に相應するもの、待人來るべし。

◎走人、失物 爻辭に「去逃出」とあるは、走人遠方に走り、失物外に出てたる象にて、「渙其血」とあり

又變卦困となるより見て、走人發見困難にして、失物出て難き象なり。上巽は東南、變坎は北、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立 爻辭に「渙其血」とあるは、旅立危険困難に遇ふ象なれば、見合せたる方吉なり。然し巽順に體して咎なきを得る象あれば、事情已むを得ざる場合は、慎みを守りて出づべく、然らば危険困難を免れて目的を遂げ得べし。

◎爭事 此爻巽に體して順徳の爲に傷害の憂ひを免れて咎なきを得るもの、争ふは爻意に反して凶なり。◎就職、試験 爻辭に「渙其血」とあるは、就職非常に困難にして、試験故障に遭遇して不成績を見る象なり。

◎開業 此爻「渙其血」とある如く、甚しき艱難危険に處する象なれば、今進むべきは時機に非ず。

◎細業、移轉 爻辭に「去逖出无咎」とあれば、轉じて險みを脱し、無事を得べし。

◎天候 此爻陽を以て卦極に居るは、今天氣良き象なるも、本來陰位にして、變卦困となるより見て、後不良となるべし。

☵ 水澤節 節亨。苦節不可貞。

(卦辭讀方) 節は亨る。苦節貞くすべからず。

(象 義) ◎「節」節とは操持、檢制の義で、物事に處して、分限あることを知りて止ることを云ふのである。此卦、兌を下にし坎を上にする。兌を澤となし坎を水となす。即ち兌澤に坎水を容れる象で、澤池に水を受け容れることは、限量があるものであるから、此卦を節と名づけたのである。又卦體を以て見れば、下より二爻陽、二爻陰、一爻陽、一爻陰となりて、その形節乃ち竹のふしに似たるを以て、亦此卦を節と名づけたのである。又交代生卦法より見れば、此卦はもと泰より來れるもので、即ち泰の五爻が三に來りて兌澤の主爻となり、泰の三爻が五に往きて坎の主爻となつたもので、これ即ち澤池を治めて坎水を容る、象であるから、これを節と名づけたのである。而して此卦を渙の次に置いた譯は、序卦傳にも「渙者離也。物不可終離。故受之以節」とある如く、物事が離散すれば、必ずこれを節するに至るが故である。

◎「苦節」苦は節の過ぐることを云ふ。物事節に過ぐれば苦しむに至るを以てなり。上六の象を取る。◎「貞」固執の義、約象良の象。

(意 義) 節とは事物各その分に安んじ、限りありて止るの義で、所謂程よきこと、又過不及なきことであるが、凡そ天下の事物程よきを得て過不及なければ必ず亨通するものである。故にこれを「節亨」と云つたのであるが、此卦九五が剛健中正の徳を得て居り、又坎を險となし、兌を悅となし、險みの中に悦ぶの象があつて險難の時に遭ひて能く道を悦ぶ心あるものは、亨通することを得るものである。即ち以上の象義を取つて節は亨ると云つたのである。然し節の道も、その中を得ずして、これに過ぎる所があれば、所謂苦節となつて、却て害あるに至るものであつて節の節たる所はその中を得るにある。故に「苦節不可貞」と云つ

て節の道を固執することの不可なるを説き、時に應じて宜しきを得て、節道の中に適ふべきことを示したのである。要するに此卦節道の要義を説き、これに處するの道を教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦節道の要義を説けるもの、即ち此卦を得たる時、萬事節度操守を守ること肝要なる時で、分外に走り、利慾に迷ひて志行を亂すことあらば、運氣を破りて災害不利に陥るものである。以上の氣運を悟りて善處せば、「節亨」とある如く、運氣安泰を得て諸事功を擧げ得るものである。尙卦意卦象より見て、急進不可、忍耐自重の必要等の意がある。

◎願望、金談、實買 卦意卦象より見て、何れも急功を望むは不可にして、忍耐自重、時機の到來を待つこと肝要なり。此心掛けを以て進まば、時遅るゝ象あるも、「節亨」とある如く、何れも功利を遂げ得る時節に會すべし。尙何れも分外の望みを抱く時は、艱難不利に陥る象あれば慎しむべし。

◎相 場 此卦節制の象なるは、相場軟調に持合ふ象なり。

◎縁 談 卦辭に「節亨」とある如く、卦意卦象より見て、成立を急がず、禮節を盡して氣長に運ばゞ纏るべし。又縁としても良縁なり。

◎子 實 卦意卦象より見て、温順律義なる兒女を得る象にて、「節亨」とある如く、安泰幸福を得べし。然し「苦節不可貞」とあるは、養育上度を過ぎて嚴重に流れざる注意を要することを示すものなり。姪姪此卦兌の陰卦、坎の陽卦を容るゝ象なるは、男兒なり。

◎縁 運 卦意卦象より見て、男女共に志行正しく、節操固き連合に添ひて幸福の象なり。然し「苦節不可貞」とあるは、夫婦間に於いて理に過ぎて情を失はざる様心掛くることを要する象なり。

◎家庭運 亦卦意卦象より見て、規則正しく平安なる家庭に生るゝ象なり。宜しく節の義を守り、志行を正しくして、家道に従ひ、平和を亂さゞる様心掛くべし。

◎壽命、病氣 節道の義に従ひ、攝生養生を守らば、「節亨」とある如く、健康長壽を得、病氣全快すべし。

◎待 人 此卦節操の象にて、「節亨」とあるは、待人節義を守りて來る象なり。

◎走人、失物 此卦限りありて止る象なるは、走人遠方に走らず、失物外に出てざる象なり。而して「節亨」とあれば、何れも判明すべし。上坎は北、下兌は西、その方角を尋ぬべし。

◎旅 立 卦意に従ひ、慎しみを忘れざれば、「節亨」とある如く、出てゝ吉なり。

◎争 事 争ひを起すは、卦意に反し凶なり。

◎就 職 節の時、急がずして忍耐自重し、時節を待たば亨通する象なれば、成功を焦燥らず、氣長に時を待たば望み達すべし。

◎試 驗 卦辭に「節亨」とあるは、好成绩を得る望みある象なるも、卦意の示す所に従ひ、堅實に勉強する心掛け肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 卦意卦象より見て、今急に進むべき時機に非ず。自重して機運の到來を待つべし。

◎天 候 卦辭に「節亨」とあるは、天氣良好の象なり。

初九 不出戸庭。无咎。

(爻辭辨方) 戸庭を出てず。咎無し。

(象 義) ◎「戸庭」戸は人の出入を節する所、家の口なり。戸庭は即ち戸に近き空處なり。初九の爻象又約象良の象。

(意 義) 初九は節の始めに居りて、陽を以て陽に居り、正を得て居るものである。これ能く時の通塞進退を知るもので、未だ行くべき時に非ざるを悟り、節を守つて能く止り、戸庭の外に出てざるものである。故にこれを「不出戸庭」と云つたのである。初九は斯くの如く、節を守りて出入を慎むものであるから、何等の咎めを受くべき過ちのある筈がない。故にこれを「无咎」と云つたのである。要するに此爻、初九が剛正を以て節の始めに居り、節道に合することを讚美したのであるが、人も亦節の道に於いて、斯くの如きを守るべきである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛正を以て節の始めに居り、戸庭を出てざる爲に咎なきもの、即ち此爻を得たる時、諸事進むに不可にして退き守るに吉なる運勢なれば、此氣運を心得て退守時を待つ心掛けが肝要である。若し此運氣に逆ひて急進妄動に流ることあらば、運氣を亂し災害不利に陥るものである。

◎願望、金談、實買 此爻節の初めに居りて未だ時を得ず、戸庭を出てざるが爲に咎なきを得るもの、即ち何

れも時運到らざる象なれば、自重退守して時節を待つべし。

◎相 場 此爻剛を以て陽に居るは、相場底意強き象なるも、節の初めに居り、戸庭を出てざる象なるは、伸び悩みて上らざる象なり。

◎縁 談 爻辭に「不出戸庭。无咎」とある如く、爻象より見て、今縁談を運ぶべき好機に非ず。良しく自重して時節を待つべし。

◎子 實 此爻剛正にして能く時を知り、節の道に合し咎なきもの、内に剛氣正直の心を藏し、行動重厚なる兒女を持ち、末には幸福を得る象なり。姪姪此爻剛正にして、變坎を中男となすは、男兒なり。

◎縁 運 此爻剛正にしてよく節の道に合するは、男子は氣性強く正しき、貞節の妻を得、女子は剛氣正直にし、身持ち正しき夫に添ふ象にて「无咎」とある如く、縁運吉祥幸福を得る象なり。

◎家庭運 此爻節の道を知り、戸庭を出てざる爲に咎なきを得るもの、家を離れず、家業を守り、身を慎しまば安泰幸福に終る象なるも、これに反して野望を起し、家を離れて妄動に走る時は、運氣を亂して不幸に陥るべし。

◎壽命、病氣 此爻剛正を得るは體質強健の象なれば、初九が節の道に合して咎なきを得るが如く、攝生養生を忘れざらば長壽を保ち、病氣全快すべし。

◎待人、走人、失物 爻辭に「不出戸庭。无咎」とあるは、待人來らず。走人遠方に走らざる象なり。下兌は西、變坎は北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、争事 爻辭に「不出戸庭。无咎」とあるは、旅立出てざるを吉とし、争事中止するを利とする象なり。

◎就職 此爻未だ時を得ず、進出せざる爲に咎なきもの、時運を得ざる象なれば、自重して時節を待つべし。

◎試験 此爻節の道に合し、咎なきもの、成績大體良好を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「不出戸庭。无咎」とあるは、何れも進まざるを吉とする象なり。

◎天候 此爻陽を以て正を得るは今天氣良好の象なるも、變卦坎となるより見て、後不良となるべし。

九 一 不出門庭。凶。

(爻辭讀方) 門庭を出てず。凶なり。

(象 義) ◎「門庭」門に近き空處のこと、戶外にあるなり。此爻約象艮の門に接するを以て象を取り、又爻の序次より見て、初九を戸庭となし、九二を門庭となすなり。

(意 義) 初九は節の初めに居るもので、家の内にあるものであるから、戸庭を出てずして家居するを吉とし、又位より見れば、無位にして野に在るものであるから、進出せざるを時宜に適するものとしたのであるが、今九二は一步を進めて門庭に當るもので、門庭は戶外に在つて通行すべき所であるから、家を出て、大いに爲す所がなければならぬものでなり、又位を以て見れば大臣の位にあるもので、進みて國家の爲に盡

す所がなければならぬものである。然るに九二は陽を以て陰に居りて正を得ず 且上に應交なき爲に、止ることを知りて進むことを知らず、剛中の徳を備へながら門庭を出て、爲す所なきものである。九二が斯くの如きは、節の節たる所以を知らずして、却つて節の道を失ひて凶なるものである。故にこれを「不出門庭。凶」と云つたのである。要するに此爻、九二が不正にして上に應交なき爲に、止ることを知りて進むことを知らず、節の道を失ひて凶なることを説き示したのであるが、これを人に取れば、徒に孤立自負して惟りその身を潔くせんと欲して、大倫を亂して凶なるものに當るものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛中を以て大臣の位に居るは、氣運を得、才力備りて大事を執行すべき時なるに、門庭を出てずして凶を招くは、機を悟らずして消極退隱に流れ、運氣を掴み得ずして功を失ふ象である。宜しく勇氣を奮ひ進み、物事を執行すべきである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「不出門庭。凶」とある如く、爻意爻象より見て、何れも氣運を得たるに拘らず、進取執行の勇なき爲に功利を遂げ得ざる象なり。宜しく氣力を奮ひて進むべし。

◎相場 此爻剛中にして進出すべき氣運にあるは、相場活躍の兆を現せる象なるも、「不出門庭」とあるは、未だその氣勢實現せざる象なり。

◎縁 談 爻辭に「不出門庭。凶」とあり、又變卦屯となるは、勇氣を缺く爲に纏るべき縁なるも停滯せる象なり。宜しく勇敢に話を運ぶべし、又縁としては剛中を得て門庭に在りて、爲す所あるべきものなれば

良縁なり。

◎子 實 此爻剛中の徳を備へて門庭に居り、爲すべき所ある象なるは、才徳ありて成功の素質を備ふる兒女を得る象なるも、「不出門庭」凶」とあるは、勇氣を缺きて才徳を發揮し得ざることを示せば、養育上此點に注意し、出來得る限り積極的に人中に出てしむる様心掛くること肝要なり。妊娠此爻陽剛を以て大臣の位に居り、變震を長男となすは、男兒なり。

◎夫 運 此爻剛中正を以て大臣の位に在り、門庭に居るは、才力ありて成功の素質を備ふる夫に添ふ象なるも、「不出門庭」凶」とあるは、内氣にして勇氣を缺く爲に發展を得ざる象あれば、妻として大いにこれを勵ます心掛け大切なり。

◎妻 運 爻辭に「不出門庭」凶」とあるは、内氣に流れて機會を失し、良縁を取逃す象なれば注意すべし。

◎家庭運 亦爻辭に「不出門庭」凶」とあるは、勇氣を缺きて家庭に戀々し、運氣を取逃す象なれば、宜しく家を離れて活動し、剛中の才徳を發揮して成功を掴むやう心掛くべし。

◎壽命 此爻剛中を得るは、體質強健の象なるも、「不出門庭」凶」とあるは、内氣にして氣力を缺き、天壽を保ち難き憂ひある象なれば、精神の修養に努め、活動的に心掛くること肝要なり。

◎病 氣 爻辭に「不出門庭」凶」とある如く爻意爻象より見て、病氣に敗けて氣力を失ひ、恢復すべきものを絶望に陥らしむる象なれば、宜しく氣力を盛んにし、轉地するか、戸外に出て、運動に努むべし。然

らば全快すべし。

◎待 人 爻辭に「不出門庭」凶」とあるは、待人來らざる象なり。

◎走人、失物 爻辭に「不出門庭」凶」とあるは、走人遠方に走らず、失物外に出てざる象なるも「凶」とあれば走人容易に判明せず、失物出で難き象なり。下兌は西、變震は東、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦爻辭に「不出門庭」凶」とある如く、爻意爻象より見て、旅立機を失して不利を招く象なれば速に出づべく、爭事決行の勇氣を缺きて不利を見る象なれば敢然として進むべく、就職氣力を缺きて功を奏せざる象あれば、強固なる意志を以て邁進すべく、試験實力を備へながら氣遅れして不成績を招く象なれば、勇氣を以て臨むべきこと肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「不出門庭」凶」とあるは、何れも速に進まざれば機を失して不利を招く象なれば、躊躇せずして直に決行すべし。

◎天 候 此爻陽を以て中に居るは、今天氣良き象なるも、本來陰位にして、變卦屯となるは、後不良となる象なり。

六 三 不節若、則嗟若。无咎。

(爻辭讀方) 節若せざれば、則ち嗟若す。咎無し。

(象 義) ◎「嗟若」嗟は憂ひ歎く義、下卦兌口の象を取りて云ふ。此爻辭の節若の若も嗟若の若も助辭な

り。  
 (意 義) 此爻節の時に當り、内卦の極たる危地に居り、上坎水に接するは坎水自ら溢れて兌澤を越えんとする象で、節することの最も肝要なる時である。然るに六三は陰柔不中正なるもので、柔伏にして自ら節する能はず、心志放肆に流れ行ひ奢移に耽り、節操の正しきものなく、時宜に應じて檢制する所なきものである。それ六三にして斯くの如くならば、憂ひを來し嗟きを致すことは當然である。即ちこれを「不節若」と則嗟若」と云つたのである。然し六三にして己れの不節なることを悟りて、喪心より悔悟すれば、則ち過ちを改めて咎なきを得るに至ることが出来るものである。故にこれを「无咎」と云つたのであるが、此爻に於いて「无咎」と云ふものは、他爻に於いて「无咎」といふ所とはその意を異にするもので、他爻に於いては咎を受くべき所がないと云ふ意味であるが、此爻に於いては、元より己れに咎があるけれども、悔悟して過ちを改むれば、則ちその咎を免れることが出来ると云ふ意味である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻内外の際たる危地に居るは、艱難なる運氣に遭遇せる象にて、陰柔不中正にて應爻の助けなく「不節若」、則嗟若」とあるは、此氣運に處して才徳節操なく、徒に嗟歎するのみにて、これを打開する力なき象である。宜しく「无咎」とある如く、心持行動を改め、強固なる意志と貞正なる節操を以てこれに臨み、運氣の轉向を計る心掛けが肝要である。然らば氣運を轉回して艱難を脱し、安泰を得るに至る望みがあるものである。

◎願望、金談、賣買 此爻陰柔不中正を以て危地に居り、「不節若」、則嗟若」とあるは、才徳力量を缺きて、何れも功を遂ぐることに至難の象なり。然し「无咎」とある如く、精神を改めて努力勉勵せば、功利を遂げ得る望みなきに非ず。

◎相 場 此爻陰柔を以て毀折の象兌の極に在るは、相堪安き卦なり。然し變卦需となるより見て、先行きは徐々に上るべし。

◎縁 談 爻辭に「不節若」、則嗟若」とあるは、態度確固ならず、又素行その他の點に缺點ある爲に、先方に拒まれて纏らざる象なり。縁としては「无咎」とあれば大體良縁なり。

◎子 實 此爻陰柔不中正にして「不節若」、則嗟若」とあるは、才力徳行を缺く兒女を持ちて、不幸を見る象なり。宜しく養育上嚴正の態度を以て、遷善の實を擧ぐる様心掛くべし。妊娠此爻陰柔を以て少女の象兌の主たるは、女兒なり。

◎縁運、家庭運 爻辭に「不節若」、則嗟若」とあるごとく、爻意爻象より見て、節操を缺きて亂行に陥る爲に、縁運上不幸薄命を招く象にて、家庭運亦堅固なる意志を缺き、志行を亂して身を過り家運を傾け、不幸艱難に陥る象なり。宜しく「无咎」と戒しめある如く、志行を改め、強固なる精神と正しき行動とを以て、運氣の轉換に努むること肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻陰柔不中正を以て内外の際たる危地に居り、「不節若」、則嗟若」とあるは、體質虛弱の上に、攝生養生を缺く爲に、短命に終り、病氣危険に陥る象なり。然し「无咎」とある如く、志行を改め攝

生養生を嚴守せば、相當の壽を保ち、病氣全快の悦びを見るに至る望みなきに非ず。

◎待 人 此爻節操なきもの、待人違約して來らざる象なり。

◎走人、失物 爻辭に「不節若、則嗟若」とあるは、走人不行迹より家出し、失物縮りなき爲に紛失せる象なり。「无咎」とある如く、手を盡し捜査せば、判明する望あり。下兌は西、變乾は西北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事 爻辭に「不節若、則嗟若」とあるは、不用意不謹慎の爲に旅中故障災難を招く象にして、爭事亦妄争して不利に陥り、困難を招く象なれば、「无咎」と戒しめある如く、旅立周到の用意と慎しみを以て出づべく、爭事中止するを利とす。

◎就職、試験 亦爻辭に「不節若、則嗟若」とあるは、堅固なる精神を缺き、志行亂れたる爲に就職望みなく、試験不成績を招く象なり。就職の成否を案するより先づ自己の志行を改むべく、成績の良否を憂ふるよりも先づ堅忍の精神を以て勉強すべし。

◎開業、轉業、移轉 此爻節操なき爲に嗟若の悲しみあるもの、何れも妄りに進むは凶なり。

◎天 候 此爻陰柔不中正を以て、毀折の象兌の主たるは天候不良の象なり。

### 六 四 安節。亨。

(爻辭讀方) 節に安んず。亨。

(象 義) ◎「安節」此爻柔正を得 剛健中正なる九五を承け、これに比する象を云ふ。

(意 義) 「安節」とは、努めて節を守ることなく、自然にしてその節に中ることを云つたのであつて、これ六四が、柔正を得て上九五の剛健中正を承け、これに正比して居り、且上卦坎水の下に居りて下卦兌澤に接するは、水の澤に入るを自然に節するもので、節制謹度自ら備り、強いて努むる所なく、安行して以て節に中るものなるが故である、それ六四にして斯くの如くなれば、其の道の亨通すること言を俟たぬ所である。故にこれを「亨」と云つたのである。要するに此爻、六四の象、自然にして節に中ることを讚美したのであつて、これに由りて節道の要義を知るべきである。

#### (占 斷)

◎運 勢 此爻柔正にして剛健中正なる九五を承けて、これに正比し、「安節。亨」とあるは、志行正しく節操固き人にて、有力なる目上の援助引立を受け、運氣安泰を得て諸事順調の運びを見る象である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「安節。亨」とある如く、爻意爻象より見て、志行正しく、有力なる目上の援助を受け、何れも順調に運びて功利を遂げ得る象なり。

◎相 場 此爻陰を以て柔に居り、坎陷の下に居るは、相場安き象なり。然し陽剛九五に比して亨通するは先行きは上るべし。

◎縁 談 爻辭に「安節。亨」とある如く、爻意爻象より見て、良縁にして順調に纏る象なり。

◎子 實 此爻柔正を以て上九五に正比するは、善良柔順の兒女を得る象にて、「安節。亨」とある如く、安



泰幸福の象なり。姪此爻柔正にして、變體兌を少女となすは、女兒なり。

◎縁 運 此爻柔正を以て剛健中正なる九五に正比し、「安節。亨」とあるは、男子は温順貞淑なる妻を得、女子は才力德行備れる有爲の夫に添ひ、共に安泰幸福を得る象なり。

◎家庭運 爻辭に「安節。亨」とある如く、平安安泰の家に生れ、資性順良にして能く家運を保ち、終生幸福を得る象なり。

◎壽命、病氣 亦爻辭に「安節。亨」とある如く、爻意爻象より見て、攝生よくして健康長壽を保ち、養生よくして病氣全快する象なり。

◎待 人 此爻柔正を以て上九五に親比し、亨通する象なるは、待人來る象なり。

◎走人、失物 爻辭に「安節。亨」とあるは、走人無事に判明し、失物出づる象なり。上坎は北、變兌は西その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「安節。亨」とあるは、旅立平安、爭事無事解決、就職成就、成績優良の象なり。

◎開 業 爻意爻象より見て、「安節。亨」とある如く、機運宜しきを得るものなれば吉なり。

◎轉業、移轉 爻辭に「安節。亨」とあるは、現狀を守るを吉とする象なり。

◎天 候 此爻陰を以て正に居り、坎險の下に在るは、今天氣不良の象なるも、陽剛九五を承けてこれに正比し、「安節。亨」とあるは、後良好に向ふ象なり。

九 五 甘節。吉。往有尙。

(爻辭讀方) 節に甘んず。吉なり。往きて尙ばること有り。

(象 義) ◎「甘」甘は味の中なるもの、九五中正の象より云ふ。◎「往」互體震の象。◎「尙」九五中正を以て尊位に在るの象。

(意 義) 此爻剛健中正の徳を備へて君位に居り、節の主たるは、節の道宜しきを得てこれを楽しむもので、天下萬民これに悦服するものである。故にこれを「甘節。吉」と云つたのである。それ九五が斯くの如きの徳を以て進み住けば、他より嘉尙推尊せらるゝに至るものである。故にこれを「往有尙」と云つたのである。要するに此爻 九五が剛健中正を以て節の主となり、節道の宜しきを得たることを讚美したのである

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛健中正を以て君位に居り、節の主となりて、「甘節。吉。往有尙」とあるは、才力德行を備へて人の上に立ち、衆望を得し運氣盛大なる象にて、諸事進みて功利を遂げ得る象なり。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「甘節。吉。往有尙」とある如く、爻意爻象より見て何れも願調に運びて功利を遂げ得る象なり。

◎相 場 此爻剛中正を以て君位の高きに居るは、相場高き象にて、變卦臨となるより見て、先行き尙上る象なり。

- ◎縁談 爻辭に「甘節。吉。往有尙」とあるは、良縁にして順調に纏る象なり。
- ◎子實 此爻剛健中正にして君位に居り、氣運盛大の象にて、「往有尙」とあるは、才力德行備りて大成功を得る兒女を得て幸福の象なり。妊娠此爻陽剛中正を以て君位に居るは、男兒の象なり。
- ◎縁運 爻意爻象より見て、男女共に縁運吉祥幸福の象なり、特に女子は、此爻剛健中正を以て君位に居るは、才力德行を兼備し、大成功を得る夫に添ふ象なり。
- ◎家庭運 此爻剛健中正を以て君位に居り、「甘節。吉。往有尙」とあるは、富貴の家に生れて才徳を備へ、衆望を得て功を立て、益々家運を盛大ならしむる象なり。
- ◎壽命、病氣 此爻剛健中正なるは體質強健の象にて、「甘節。吉。往有尙」とある如く、長壽を保ち、病氣全快する象なり。
- ◎待人 此爻天下の悦服を受けて吉なるは、待人來る象なり。
- ◎走人、失物 爻辭に「甘節。吉。往有尙」とあるは、走人失物直に判明して悦びを得る象なり。上坎は、北、變坤は西南、その方角を尋ぬべし。
- ◎旅立、爭事、就職、試験 亦爻辭に「甘節。吉。往有尙」とある如く、爻意爻象より見て、旅立大吉、爭事勝利、就職成就、試験成績優秀を得る象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 爻辭に「往有尙」とあるは何れも進みて吉なる象なり。
- ◎天候 此爻陽剛中正にして盛大の象あり。又變卦臨となるより見て、天氣良好の象なり。

上六 苦節。貞凶。悔亡。

(爻辭讀方) 節に苦しむ。貞ならば凶なり。悔亡びん。

(象 義) ◎「苦節」苦しむとは節に過ぐるの義にて、上六節の極に居る象より取る。◎「貞」約象艮止の象。◎「凶」上卦坎の象。

(意 義) 上六が節の極に居り、重陰不中なるは、これ節の中を過ぎたるもので、却て苦しみに変ずるものである。故にこれを「苦節」と云つたのであるが、上六にしてこれを固執して悟る所がなければ、その凶なることは自ら明かである。故にこれを「貞凶」と云つて戒しめたのである。然し上六がその節に過ぎたることを覺醒して、時宜に適應するの途に出づれば、自ら悔亡ぶるに至ることを得るものである。故にこれを「悔亡」と云つたのである。要するに此爻、上六の象を以て、節の道貴ぶべき所なるも、その度を過ぎて過激に走らば、中節の正徳を失ひて却つて凶害となるべきことを示し、これを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運勢 此爻重陰不中にして卦極に居り、節に過ぎて苦しむ象あるは、消極退守に流れて却て運氣を損ずる象なれば、「貞凶。悔亡」と戒しめある如く、思想方針を一變して積極進取の方針を取り、運氣開轉を計る心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 此爻節に過ぎて苦しむ象あるは、何れも進出の勇氣を缺きて功利を遂げ難き象なれば、

「貞凶。悔亡」と戒しめある如く、宜しく勇氣を出し、態度方針を變へて進む心掛け肝要なり。

◎相場 此爻重陰を以て節の極に居るは、相場安き象なり。

◎縁談 爻辭に「苦節」とある如く、爻意爻象より見て、勇氣を缺く爲に纏らざる象なり。纏めんと欲せば「貞凶」とある如く、態度を改め勇氣を出して進むこと肝要なり。然し縁としては爻意爻象より見て良縁に非ず。

◎子實 此爻重陰不中にして卦極に居り、節に過ぐる象なるは、兒女才力乏しく特に勇氣を缺きて成功を得ざる象なれば、「貞凶。悔亡」と戒しめある如く、養育法を一變して強硬策を取ること大切なり。妊娠此爻陰を以て柔に居り、變異を長女となすは、女兒の象なり。

◎縁運 此爻重陰不中にして卦極に居り、節に過ぎて苦しむ象あるは、男女共に求縁上勇氣を缺きて引込思案に流れ、不幸を見る象なれば、心氣を轉じて縁を求むること肝要なり。

◎家庭運 此爻重陰不中を以て卦極に居り、「苦節」象あるは、家庭運吉ならず。特に因循姑息いんじゆんこくそくに流れて不幸を見る象なれば、氣力を養ひ快活に心掛けること肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻重陰不中にして卦極に居り、「苦節」とあるは、虚弱にして短命の憂ひあり、病氣經過びやうきけいご々しからずして苦しみを見る象なり。宜しく「貞凶。悔亡」と戒しめある如く、心氣を轉じ、攝生養生法に積極的方針を取り、氣運の轉換を計ること大切なり。

◎待人 爻辭に「苦節。貞凶」とあるは、便々として待つも、待人來らざる象なり。「悔亡」とある如く

自身より出向くべし。

◎走人、失物 亦「苦節。貞凶」とあるは、何れも捜査の方針を過ち居る爲に判明せざる象なり。「悔亡」とある如く、方針を一變せば判明する望みあり。上坎は北、變異は東南、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事、就職、試験 此爻節に過ぎて苦しむ「貞凶」とあるは、旅立不安を感じて引込思案に流るゝ爲に機を逸し、争事、就職、勇氣を缺きて不利を招き、試験度胸どきゆうを缺きて成績不良を招く象なれば、「悔亡」とある如く、何れも勇氣を出して進むべし。

◎開業 爻意爻象より見て、「貞凶」とある如く、現状を打開して開業すべし。

◎轉業、移轉 爻辭に「貞凶」とあるは、現状を固執するを凶とする象なれば、轉ずるを吉とす。

◎天候 此爻陰を以て正に居り、陰卦坎の極に居るは、天氣不良の象なり。

風澤中孚 中孚豚魚吉。利涉大川。利貞。

(卦辭讀方) 中孚は豚魚吉なり。大川を涉るに利し。貞に利し。

(象 義) ◎「中孚」孚は鳥の爪に从ひ、子ふ。鳥の卵を化するに期を失はざるを云ふ。乃ち中孚とは中に誠信あるの義である。此卦全卦の體を見るに、二陰内に在りて四陽外にある形で、中虚の象であり、又二五共に剛中を得るは中實の象である。而して中虚は信の本で、中實は信の質である。即ち今此卦、中虚中

實を併せ得たるは中学の象である。又下兌を悦ぶとなし、上巽を従ふとなす。即ち下悦びて上従ふの象である。それ下にある者が悦びて上にある者に従ひ應ずるは、中心に信あるもので、中学の義である。又兌は澤で巽は風である。即ち澤上に風ある象で、澤上に風あれば澤水これに隨ひて動くものであるが、その風の水を動かすも、亦水の風に隨ひて動くも、心なくして自然に動くもので、無心にして動くはこれ信の義である。即ち以上の象義より以りて此卦を中学と名づけたのである。而して此卦を節の次に置いた譯は、序卦傳にも「節而信之。故受之以中学」とある如く、誠信の道は節操ありて始めて全きを得るものであるからである。

◎「豚魚吉」此義に就きては諸説ありて、何れを正しとするかに就きては確説なきも、象傳にも「豚魚吉、信及豚魚也」とあれば、誠信の道無知なる豚魚にも及ぶとなす説を取ることにする。而して豚も魚も上卦巽の象より取る。◎「利涉大川」は下卦兌の象、大川を渉るに利しとは、巽木澤水の上に浮べる象より取り、又全卦舟の畫象あるより取る。

(意 義)「中学、魚吉」と云つたのは、中学とは意義の所に於いて説明せる如く、誠信の義であるが、誠信の心があれば、豚や魚の如き無智にしてこれを感じしむることが至難のものでも、これを感じしむることが出来るもので、誠信の道の吉なることを示したのである。次に「利涉大川」と云つたのは、誠信の道を以て進めば、大川を渉るの難事、即ち重大事をも進み行きて功を遂げることが出来るものであると云ふことを説き示したのである。然し、誠信の道と雖、そこに正邪の別があつて、例へば彼の尾生が橋下の約束に

信を守つて、水に溺れて死したるが如きは、俗に云ふ馬鹿正直で、信の邪なるものである。故に正善なる道に誠信を守ることが眞の中学の道である。故に「利貞」と云つてこれを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦誠實の象を現すもの、即ち此卦を得たる人、心持誠實にして他を感動せしめ、信服を得て諸事功を遂げ志を達し、悦びを得る象がある。尙卦意卦象より見て、物事進みて吉、共同事の成功、願望成就旅立吉等の象がある。然し「利貞」と戒しめあれば、調子に乗りて志行を亂し、正道を失はざる様心掛けることが肝要である。

◎願望、金談、賣買 卦辭に「中学豚魚吉。利涉大川」とあるは、誠實の心掛けを以て進む爲に、願望金談成就し、賣買順調に運びて成功利益を得る象なり。

◎相場 中爻は誠實の象を現すもの、相場手固く持合ふ象なり。而して「利涉大川」とあれば、先行きを見越して買付けて利あるべし。

◎縁 談 卦辭に「中学豚魚吉。利涉大川」とあるは、良縁にして進みて纏る象なり。

◎子 實 中学は誠實の象にして吉なるもの、誠實なる兒女を得て幸福の象なり。妊娠此卦上巽は長女の象にて、下兌は少女の象なるは、女兒なり。

◎縁運、家庭運 卦辭に「中学豚魚吉」とある如く、縁運、家庭運共に平安順調に進みて幸福の象なり。然し「利貞」と戒しめあれば、心志素行を亂して折角の幸福を破らざる様心掛けること大切なり。

◎壽命、病氣 亦卦辭に「中孚豚魚吉」とあるは、攝生養生よき爲に、健康長壽を得、病氣全快する象なり。  
 ◎待人 此卦誠實の象を現すは、待人信實心ありて來る象なり。  
 ◎走人、失物 卦意卦象より見て、何れも問もなく判明すべし。上巽は東南、下兌は西、その方角を尋ねべし。

◎旅 立 卦辭に「利涉大川」とあるは、出て、吉なる象なり。

◎爭 事 中孚は誠實なる爲に吉なるもの、争ふよりも信實の心掛けを以て和解する方有利なり、然し「利涉大川」とあれば、事情已むを得ざる場合は争ひて利を得べし。

◎賦職、試験 卦辭に「中孚豚魚吉。利涉大川」とあるは、誠實なる爲に就職調ひ、試験好結果を得る象なり。然し「利貞」と戒しめあれば、慢心して志行を亂し、將來の悔を招かざる様慎しむを守ること大切なり。

◎開業、轉業、移轉 卦辭に「利涉大川」とあるは何れも進みて吉の象なり。

◎天 候 中孚は氣運平安の象なれば、天候平穩の象なり。

初 九 虞吉。有他不燕。

(爻辭讀方) 虞あやせば吉きちなり。他たあらば燕あやからず。

(象 義) ◎「虞」安と同義、初九剛正にして六四に正應する象。◎「不燕」燕あやは宴えんと通ず。亦安の義なり。

り。不燕とは變坎の象を取り、又上卦巽を進退不果となすの象より取る。

(意 義) 初九は中孚の時に當りて、剛正を以てその初めに居り、上六四に正應して居るものである。それ中孚の時は誠信あるを以て吉とするものである。故に初九たるものは、意を安んじて己れの正を守りて六四に應ずることに孚信なれば吉を得る所以であつて、若し六四を捨て、應位にあらざる他爻を信じてこれに心を寄せれば、これ中孚の道に反くもので、即ち天命に悖りて凶を招くに至るものである、故にこれを「虞吉」有他不燕」と云つたのであつて、初九が六四の九五に親比して初九に應和せざる憂ひがある爲に、初九の心安んぜざるのあるが故に、斯く説き諭してこれを戒しめたのである。要するに此爻、中孚の道、誠信を旨として他に迷はざるにあることを説き示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻を得たる時、爻辭に「虞吉」有他不燕」とある如く、意志を強固に持ちて現状を守り、他事に迷はざる心掛けが大切なる時で、此の心掛けを守れば無事安泰を得るも、若しこれに反して薄志弱行、色々と物事に迷ひて心を亂せば、凶災不利に陥る象があるから慎しむべきである。尙六四との關係より見て目上に信賴して吉運を得る象がある。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「虞吉」有他不燕」とある如く、爻意爻象より見て、願望一事に専念せば成就するも、移氣になり彼れこれと迷ひて功を遂げざる象があり、金談目上の關係深き人を信じて依頼せば調ふも、不安焦燥に流れ、妄動して破談を招く憂ひがあり、賣買一事に進みて誠實を守れば利を得べきも、利に

迷ひ色々の事に手を出して失敗不利を招く惧れがあるから、何れも以上の運氣を悟りて進む心掛けが肝要である。

◎相場 此爻剛を以て陽に居るは、相場底意強きも、最下に居るは割合に伸びざる象にて、變卦渙くわんとなるより見て、一時下放れを示して後に恢復に向ふべし。尙爻意により見て、氣迷ひて損失を招く象あれば注意を要す。

◎縁談 爻辭に「虞吉。有他不燕」とあるは、一意専心誠實を以て進まば纏るも、色々と迷ひて不決斷に流るれば破談となる象なり。縁として孚信ふしんの心を失はざれば平和を得べし。

◎子實 此爻中孚の時に居りて、剛正なるは、誠實なる兒女を得る象なり。而して爻意より見て、兒女を信賴して干渉せざるを吉とす。姪姪此爻剛正にして變坎を中男となすは、男兒なり。

◎緘運、家庭運 亦爻辭に「虞吉。有他不燕」とある如く、爻意爻象より見て、連合ひを信賴して疑心を抱かざれば、縁運吉祥幸福を得べきも、若し嫉妬疑念を挟む時は夫婦間の縫ぬいれを招き、不幸を見るに至る象あれば慎しむべし。家庭運亦、家業を固く守り、色々と心に迷ひを起さざれば平和幸福を得べきも、若し家業以外の事に心を動かし、家運を守る心掛けを失ふ時は、艱難不幸に陥るべし。

◎壽命、病氣 此爻剛正なるは體質強健の象なれば、中学の道に従ひ、志行を正しくして攝生を守らば、長壽を保ち、病氣全快すべし。尙爻意より見て、治療上色々と迷ひを起し、病狀を悪化する憂ひあれば注意を要す。

◎待人 此爻中孚の道に従ひて、他念を生ぜざれば吉を得る象なれば、色々と迷ひ焦燥せず、落着きて時期を待たば來るべし。

◎走人、失物 爻意より見て、氣長に根氣よく探さば、走人判明し、失物出づべし。下兌は西、變坎は北、その方角を尋ぬべし。尙此爻最下に居り、變坎を陥るとなすは、失物何かの下になり居るか、何所かへ落込み居る象なり。

◎旅立、争事、就職、試験 爻辭に「虞吉。有他不燕」とある如く、現狀を守りて他に心を動かさざるを吉とする象なれば、旅立出てざるを吉とし、争事中止するを利とし、就職迷はず、焦燥らずして時節を待たば成就の望みあり。試験誠實に勉強せば好成绩を挙げ得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「虞吉。有他不燕」とある如く、此爻現狀を守りて他に心を移さざるを以て吉とするものなれば、何れも現狀を守りて進まざるを吉とす。

◎天候 此爻陽を以て正に居り、變卦渙くわんとなるより見て、天氣良好なるか、不良の天氣轉換して良好なる象なり。

九 一一 鳴鶴在陰。其子和之。我有好爵。吾與爾靡之。

(爻辭讀方) 鳴鶴めいかく陰いんに在あり。其その子こ之これに和わす。我われに好爵こうかく有あり。吾われ爾なんぢと之これに靡つよる。

(象義) ◎「鳴鶴」親鶴の幽陰の地に在りて鳴くものを云ふ。九五を指す。鳴は兌口の象、鶴も亦兌の

象。鶴は澤鳥にして林間に遊ばざるものなればなり。◎「在陰」九二陰位に在るより云ふ。鳴鶴夜陰にあるの意。◎「其子」子鶴のこと、九二を指す。◎「和之」兌を和悦となすの象。◎「好爵」好は美なり、爵は爵祿なり。全卦大離の象あり。離を美となし、貨貝となすより取る。又爵は兌口の轉象なり。◎「爾」九二を指す。九五が上より呼びかくる辭なり。◎「靡」古本廢に作る。つながらの意なり。九五九二同徳相應するの象。

(意 義) 鶴は親子の情愛が深いもので、所謂燒野の雉、夜の鶴と云ふが如く、夜陰に在つて親鶴は子鶴を呼び、子鶴はこれに和し、互に相離れ相失はぬやうに注意し合ふものである。そこで九二と九五とは同剛であるが、今中孚の時て共に中實なるものであるから、異例として同徳相應するものである。即ち「鳴鶴在陰。其子和之」と云つたのは、此の九二と九五とが同徳を以て孚信相應する象を、親鶴と子鶴とが相鳴和して助け合ふ情愛に喩へて説き示したのである。次に「我有好爵。吾與爾靡之」と云つたのも亦九二と九五が同徳相應することを、他の事例を以て説き示したもので、九五が我れに美なる爵祿があるが、これ孚信の徳を以てこれを得たものであるから、汝九二と共に孚信を以てこれを共にし、相互に和樂しよう、九五が九二に呼びかける辭を以て、その同徳相應することを示したのである。要するに此文、九二と九五とが同徳相應して孚信の道を得たることを讚美したのであつて、これを人事に取れば、「鳴鶴在陰。其子和之」と云ふ句は、鶴の親子の情愛を假りて、親子間に於ける誠信和樂の義を知らしめ、又「我有好爵。吾與爾靡之」と云ふ句は、君臣間に於ける誠信和樂の義を知らしめたものである。

(占 斷)

- ◎運 勢 此爻九五と誠信を以て和樂するもの、即ち此爻を得たる時、誠實の心を以て他と親和し、運氣吉祥を得て諸事順調に運ぶ象であり、特に目上の引立援助を受けて盛運を得る象がある。
- ◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、誠信の心を以て進む爲に、衆人の信愛を受け、特に目上の援助ありて何れも功利を遂げ得る象なり。
- ◎相 場 此爻剛中を以て、剛健中正なる上九五に應和するは、相場高き象なり。
- ◎縁 談 爻意爻象より見て、良縁にして纏る象なること説明の要なし。
- ◎子 實 爻辭に「鳴鶴在陰。其子和之」とあるは、親子間の情愛親密にして、平和幸福を得る象なり。妊娠此爻剛中にして、變震を長男となすは、男兒の象なり。
- ◎縁 運 此爻誠信にして和樂の象あるは、夫婦間の眞情密にして、圓滿幸福を得る象なり。
- ◎家庭運 爻辭に「鳴鶴在陰。其子和之」とあるは、親子間の情愛深く、平和幸福なる家庭を見る象なり。
- ◎壽命、病氣 此爻誠信を以て和樂する象なるは、攝生養生よき爲に健康長壽を保ち、病氣全快して悦びある象なり。
- ◎待 人 此爻九五と同徳相應じて和樂し、「吾與爾靡之」とあるは、待人來る象なり。
- ◎走人、失物 此爻誠信和樂の象にて、爻辭に「吾與爾靡之」とあるは、走人直に判明し、失物出て、悦びを得る象なり。下兌は西、變震は東、その方向を尋ぬべし。

◎旅立 爻意爻象より見て、出て吉なり。  
 ◎爭事 此爻孚信の道を以て和樂するも、争ふは爻意に反して凶なり。宜しく和解すべし。  
 ◎就職、試験 爻意爻象より見て、就職目上の引立によりて成就し、試験勉強の功現れて優秀の成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻孚信にして和樂し、運氣平安の象なれば、何れも進みて吉なり。

◎天候 此爻剛中を以て陽剛中正なる九五と相應じ、平安和樂の象あるは、天氣良好の象なり。

六 三 得敵、或鼓、或罷、或泣、或歌。

(爻辭讀方) 敵を得て、或は鼓し、或は罷め、或は泣き、或は歌ふ。

(象 義) ◎「敵」六四となすものと、上九となすものとの二説あり。予思ふに、上九は陰陽相應するものなれば敵となすは當らず。六四は上卦の主にして六三は下卦の主なり。二主相敵するものと見るを當れりと。◎「或」六三陰を以て陽に居るより云ふ。◎「鼓」互體震の象。◎「罷」約象艮止の象。◎「泣」及び◎「歌」共に下卦兌口の象、又全卦大離の象あり、離を火となし、勢ひ定まらざる象よりも取る。

(意 義) 此爻陰柔不中正を以て兌の主となり、下卦の極に居りて、上卦の主六四と相對す。而してこれに比せんとするも、同柔に親比するにを得ぬものである。これ即ち相對抗して敵を得るものである。そこで鼓を打ちて進みてこれを攻めんと欲するものであるが、六四は正を得て居る上に、上九五を承けてその陽

剛の助けを得て居るものであるから、力又ばずしてこれを攻めることが出来ぬ爲に、これを中止するものである。斯くの如く六三は六四の敵を攻め様として、力及ばずして退くもので、その六四の來りて攻めんことを怖れ憂ひて泣くに至るものであるが、六四は中学の時に當りて、柔正を得て居るものであるから、來りて他を攻める様なことをせぬものである。故に六三はこれを見て悦び歌ふに至るのである。即ち以上の義を「得敵、或鼓、或罷、或泣、或歌」と云つたのである。而して此爻吉凶の辭を係げざるも、中学の時に當りて、斯くの如き狂態萬狀、定心なきはその凶なることを言を俟たぬ所である。宜しく六三の此狀態に鑑みて、不中正にして定心操守なきもの、大いに戒慎すべき所である。

(占 斷)

◎運勢 此爻中学の時に當りて、陰柔不中正を以て内外の際たる危地に在り、定心なくして凶なるもの、即ち此爻を得たる時、艱難危險なる運氣に處し、確固たる精神操守なく、志行亂れて狼狽に陥り、凶災を招く象である。宜しく戒慎して強固なる精神を奮起し、これに善處する心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 此爻確固たる定心なく、志行亂るゝもの、何れも功利を遂げ得ざること明かなり。

◎相場 此爻陰柔を以て毀折の象兌の主たるは、相場安き象にて、變卦小畜となるより見て、先行き不勢に持合ふ象なり。

◎縁談 爻意爻象より見て纏らず。又凶縁なること説明の要なし。

◎子寶 此爻陰柔不中正にして定心なきもの、才力乏しく且徳を缺きて志行亂れたる兒女を持ち、不幸辛



勞を見る象なり。姪此爻陰柔にして少女の象兌の主たるは、女兒なり。

◎縁運 此爻陰柔不中正にして定心なく、凶の象なるは、男子は不貞不順の妻を持ち、女子才力徳行を缺く夫に添ひて、共に不幸薄命の象なり。

◎家庭運 此爻内外の際たる危地に居るは、艱難なる家庭に生るゝ象にて、陰柔不中正にして定心なく、凶なるは、才力徳行を缺きて、艱難に處する能力なく、徒に困惑して益不幸艱難に陥る象なり。

◎壽命、病氣 此爻陰柔を以て危地に居り、毀折の象兌の主たるは、生れつき虚弱にして健康上障害多く、病氣重感危険の象なり。然も不正にして定心なきは、不攝生不養生にして短命に終り、病氣恢復絶望の象なり。

◎待人 此爻陰柔不中正にして操守定心なきもの、待人來らず。

◎走人、失物 此爻定心なく、狂態萬狀、凶の象あるは、走人家出先にて流浪し居りて居る所判明せず、失物轉々として人手に渡り出で難き象なり。

◎旅立 爻意爻象より見て、旅中安定を得ざる象にて、凶なり。

◎争事 此爻六四の敵を攻めんとして力及ばず、中止する象なるは、争ひて破るゝか、途中にて争心挫折して不利に終る象なり。

◎就職、試験 爻意爻象より見るも、又變卦小畜せうこくより見るも、就職望みなく、試験不成績なること明かなり

◎開業、轉業、移轉 此爻陰柔不中正にして才徳定心なきは、進みて凶を見ること明かなり。

◎天候 此爻陰柔を以て毀折の象兌の極に居り、變卦小畜せうこくとなるより見て、天候不良の象なり。

### 六四 月幾望。馬匹亡。无咎。

(爻辭讀方) 月望つよぼうに幾ちかし。馬匹ばひつ亡なす。无な咎とが。

(象義) ◎「幾望」望は満月のこと、即ち望に幾しとは満月に近き意にて、盛大の象を現す。乾を満月となす。六四變ずれば上巽乾となる。即ち望に幾き象なり。◎「馬匹」馬は互體震の象、匹は配なり。類なり。六三、六四共に互體震の中にあるを以て云ふ。即ち馬匹とは群類の意にて六三を指すなり。◎「亡」六四の六三を拒みて親比せざらしむを云ふ。

(意義) 六四は中学の時に當り、柔中を以て巽の主となり、剛健中正なる上九五に正比し、下初九の剛正に應じて居る。これ、その柔正なるは順の道を得たるものであり、上九五の君に正比する忠誠にして道正しきものであり、下初九に應ずるは徳下に及ぶものであつて、然も巽の主たるは、その徳の盛んなること恰も満月に近きものである。故にこれを「月幾望」と云つたのである。而して六四は陰柔不中正なる六三がこれに親比せんと欲するも、これを拒み退けて、一意上九五に親比し、且六三がこれを敵として攻めんとするも、敢えてこれを争はざるものである。これ、群類を絶して上の尊きに従ひ、中学の道全きを得るもので、咎なきを得る所以である。即ちこれを「馬匹亡。无咎」と云つたのである。要するに此爻、六四の能く中学の道を得て、これを全うすることを讚美したもので、これに由つて中学の道の要義を悟るべきである。

(占 斷)

- ◎運 勢 此爻柔正にして、陰柔不中正なる六三を退け、上九五に親比し、中孚の道全きを得て咎なきもの即ち此爻を得たる人、心正しく操守固く、小人不善の徒に親しまず、徳高き目上の人に從ひ、その人の引立を受けて運氣吉祥盛大を得る象である。
- ◎願望、金談、賣買 此爻柔正にして中孚の道を全うし運氣吉祥を得るもの、即ち心志行動宜しきを得て、願望金談成就し、賣買順調に運びて利を得る象なり。
- ◎相場 此爻陰を以て柔に居るは、相場安き象なるも、剛正なる九五に親比し、變卦履となるより見て、先行き強調に轉ずべし。
- ◎縁 談 爻辭に「无咎」とある如く、爻意爻象より見て、良縁にして纏る象なり。
- ◎子 實 此爻柔正を以て上九五に親比するは、心正しく柔順にして親孝行なる兒女を得、幸福なる象なり 姪姪此爻柔正にして、長女の象異の主たるは、女兒なり。
- ◎縁 運 亦此爻柔正を以て剛正なる九五に親比し、咎なきを得るは、男子は柔順貞節の女を妻とし、女子は才力徳行備はれる有爲の夫に添ひ、共に安泰幸福を得る象なり。
- ◎家庭運 此爻君側宰相の位に居るは、富貴の家に生るゝ象にて、柔正の徳を備へて中孚の道を全うし、咎なきを得るは、志行正しく誠徳を備へて、安泰幸福を得る象なり。
- ◎壽命、病氣 爻辭に「无咎」とある如く、爻意爻象より見て、攝生養生よき爲に健康長壽を得、病氣全快

を得る象なり。

- ◎待 人 此爻柔正にして上九五に正比するは、待人來る象なり。
- ◎走人、失物 爻辭に「无咎」とある如く、爻意爻象より見て、走人失物共に無事に判明する象なり。上巽は東南、變乾は西北、その方角を尋ぬべし。
- ◎旅 立 爻辭に「无咎」とある如く、出てゝ吉なる象なり。
- ◎爭 事 此爻柔正を以て上九五に親比し、中孚の道全きを得る爲に咎なきを得るもの、争ふは爻意に反して凶にして、誠意を以て和解するを吉とする象なり。
- ◎就 職 此爻上九五に親比して運氣吉祥なる象なるは、目上の人に依頼し、その引立によりて調ふ象なり。
- ◎試 驗 爻辭に「无咎」とある如く、爻意爻象より見て、誠實に勉強せる功現れて好成绩を得る象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 爻辭に「无咎」とあるは、何れも進みて吉なる象なり。
- ◎天 候 此爻陰を以て正に居るは今天氣不良の象にて、變卦履となるより見て、後一時晴るゝも亦再び不良となる象なり。

九五 有孚擊如。无咎。

(爻辭讀方) 孚ありて擊如たり。咎無し。  
 (象 義) ◎「有孚」に九五剛健中正の象。◎「擊如」擊は拘なり、繫なり。即ち擊如とは相牽きて連な

り繋がる貌を云ふ。約象良を手となし、上卦巽を繩となす象より取る。

(意 義) 此爻中孚の時に當り、剛健中正にして尊位に居り、中孚の主たるは、君主が孚誠を以てその位に在り、聖徳天下を感化する象であり、然も剛中九二と同徳相應じ、二陰を包容するは、君臣互に相信じてその固結連繋し、堅きこと金石の如き象である。故にこれを「有孚學如」と云つたのであつて、それ九五の徳斯くの如くなれば、その咎なくして吉を得ることは言を俟たぬ所である。故にこれを「无咎」と云つたのである。要するに此爻、九五の剛健中正にして中孚の道全きを得たる象を、聖君の徳天下に及ぶ義に喩へてこれを讚美したのであるが、此徳たるや、萬人の貴ぶべく學ぶべき所である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛健中正を以て君位に居り、下剛中の九二と應じ、中孚の道全きを得て「有孚學。无无」とあるは、才力徳行を備へて人の上に立ち、富貴にして能く目下の有能の士を用る、心を併せて進み、益運氣の盛大を得る象である。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、才徳を備へて信用を得、何れも順調に運びて功利を得る象なり。尙九二との關係より見て、目下の有能者を用るて便宜を得る象あり。

◎相 場 此爻剛正を以て君位の高きに居るは、相場高き象なるも、變卦損となるより見て、先行き下る象あれば、調子に乗りて進まず、警戒する必要あり。

◎縁 談 爻辭に「有孚學如」とあるは、双方の誠實相通じて纏る象にて、縁としても「无咎」とある如

く、爻意爻象より見て良縁なり。

◎子 實 此爻剛健中正を以て尊位に居り、「有孚學如」とあるは、才力徳行を備へて大いに成功し、然も親に對して誠實の心ある兒女を持ちて幸福の象なり。姪姪此爻剛健中正にして君位に居るは、男兒の象なり。

◎縁 運 爻辭に「有孚學如」とあるは、夫婦相互の間に眞情ありて緊密なる象を示し、「无咎」とある如く安泰幸福を得べし。特に此爻剛健中正を以て君位に在るは、女子の、富貴にして才徳を備ふる夫に添ふ象なり。

◎家庭運 此爻剛健中正を以て君位に居るは、才力徳行を備へて富貴の家に生れ、運氣盛大の象にて、「有孚學如。无咎」とあるは、家族間に誠實心ありて、安泰幸福を得る象なり。

◎壽命、病氣 此爻剛健中正を得たるは、體質強健の象にて、中孚の道全きを得て「无咎」象あるは、攝生養生よくして長壽を保ち、病氣全快する象なり。

◎待人、走人、失物 此爻九二と同徳相應じ、「有孚學如。无咎」とある如く、相牽連すること固き象なるは、待人來り、走人判明し、失物出づる象なり。上巽は東南、變良は東北、その方向を尋ぬべし。

◎旅 立 爻辭に「无咎」とあるは、出て、吉なる象なり。

◎争 事 此爻九二と同徳相應じ、中孚の道全きを得て咎なきもの、争ふは爻意に反して凶なり。宜しく中孚の道に従ひ、誠實を以て和解すべし。

◎就職、試験 爻辭に「无咎」とある如く、爻意爻象より見て、就職調ひ、試験好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「无咎」とあるは、何れも進みて吉の象なり。  
◎天 候 此爻剛健中正にして氣運盛大の象あるは、天氣良好の象なり。

上 九 翰音登于天。貞凶。

(爻辭讀方) 翰音天に登る、貞ならば凶なり。

(象 義) ◎「翰音」鶏は羽を振ひて後に聲を出すものなり。即ち翰音は鶏のことなり。上卦巽の象。◎「登」于天「上九」天位たる卦極に居るの象。虚聲のみにして實なきの意なり。鶏は身重くして高飛すること能はざれ共、その聲遠くに聞ゆるものなるより、これに喩へて云へるなり。

(意 義) 上九は不中正を以て卦極に居るものである。これ中孚の道過ぎて孚信なきもので、これを喩へて云へば、鶏の身重くして高く飛ぶこと能はざるも、その聲は飛揚して遠くに聞ゆるが如きものである。即ちこれを「翰音登于天」と云つたのであつて、上九の中孚の名ありて孚信の實なきことを云つたのである。それ上九が斯くの如くにして改むることなく、これを固執して已まされば、その凶なること以て知るべきである。故にこれを「貞凶」と云つて戒しめたのである。要するに此爻、上九の不中正にして中孚の極に居り、孚信の實なくして凶なることを示し、以て人の外面を装ひて内に實なく不信なるものを排撃し、これを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、運氣盛んなる象なるも、不中正にして孚信の實なく、凶なる象なるは、才徳實力なく、僥倖にして盛運を克ち得たるものなれば、志行を改めて内實を強固にせざれば「貞凶」とある如く、運氣逆轉して永續せず、艱難悲境に陥ることを示せば、戒慎してこれを免かるゝ心掛けが肝要である。尙爻意より見て、分を悟らず、大事を遂げんとするの凶災、應變の道を悟らずしての失敗不利等の象がある。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「翰音登于天。貞凶」とある如く、分外の大望大金を望みて成就せず、實力なくして大賣買に手を出して失敗損失を招く象なり。慎しみを守ること大切なり。

◎相 場 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、相場上りたる象なるも、「翰音登于天」とあるは、實質なくして空景氣に吊上げられたる相場なれば、先行き崩落すべし。

◎縁 談 此爻不信にして凶なるもの、誠實なき爲に纏らざるか、一旦纏るも己れの内實に虚偽ある爲に破るゝ象なり。又「貞凶」とあれば、縁としても凶縁なり。

◎子 實 此爻不中正にして中孚の道を得ざるは、眞實心なき兒女を持ちて不幸を見る象なり。妊娠此爻陽剛なるも、不中正を以て長女の象巽の極に居るは、男兒と思ひしもの女兒の象なり。

◎縁 運 此爻不中正にして、卦極に居り、孚信の道を失ひて凶なるは、男女共に不誠實の態度を以て縁を結べる爲に、暴露して後に不幸を見る象なり。又眞心なき連合ひに添ひて不幸を招く象なれば注意を要す。

◎家庭運 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、盛家に生るゝ象なるも、「翰音登于天」とあるは、内實に

於いて空乏せる象ありて、外觀の如く幸福ならず、苦勞ある象にて、「貞凶」と戒しめある如く、誠實を以て現狀を打破し、整理改革に努めて、家運の轉換強固を計ること肝要なる象なり。

◎壽命 此爻陽剛なるも不中正にして、名ありて實なき象なるは、外面強健に見えて内實虚弱の象なれば「貞凶」と戒しめある如く、生活を改善して身體の健康を計らざれば、短命に終る象なり。

◎病氣 爻辭に「貞凶」とあるは、治療の方法に誤りありて危険に陥る發ひあることを示すものなれば、治療の方法を變じて療養すること肝要なり。

◎待人 此爻鶏の聲のみ高くして飛揚する能はず、名ありて實なき象なるは、來意を報ずるのみにて終に來らざる象なり。

◎走人、失物 此爻高飛する能はざる鶏の象なるは、走人高飛びせず、失物外に出でずして内にある象なり。然し「貞凶」とあるは、捜査の方針を過ち居る爲に判明せざる象なれば、宜しく方針を變じて探すべし。尙失物は卦極にあるより見て高所にある象なり。上巽は東南、變坎は北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「貞凶」とある如く、爻意爻象より見て、旅立強いて出て、凶を招き、爭事實力なく且方策を誤りて破れ、就職誠意を缺きて調はず、試験僥倖を夢みて勉強を怠る爲に不成績を見る象なり。

◎開業 亦爻辭に「翰音登于天。貞凶」とあるは、實力充實せずして妄に開業し、失敗を招く象なれば先づ實力の充實に努めて、然る後に開業すべし。

◎轉業、移轉 爻辭に「貞凶」とあるは、現狀を固執するを凶とする象なり。斷然轉ずるを吉とす。  
◎天 候 此爻陽剛にして卦極に居り、勢威盛んなる象あるは、今天氣良き象なるも、本來陰位にして變坎を雨となすは、不良に變ずる象なり。

☳ 雷山小過 小過亨。利貞。可小事。不可大事。飛鳥遺之音。不宜上。宜下。大吉。

(卦辭讀方) 小過は亨る。貞に利し。小事に可にして大事に可ならず。飛鳥之れが音を遺す。上るに宜しからずして下るに宜し。大吉なり。

(象 義) ◎「小過」小過とは小なるもの、過ぎたること、又過ぎることの小なる意である。それ易に於いては陽を大とし陰を小とする。今此卦二陽四陰にして且二五兩爻共に陰なるは、陰の陽に過ぎたる象であり、又二陽内に在つて主となり、四陰外に在つて客たるの貌で、これ客が主に過ぎたる象で、澤風大過の卦と反對であつて、即ち小過の義である。又上卦の震を雷となし、下卦の艮を山となす。それ雷は地より發する生氣で、奮ひ動きて萬物の發育を鼓舞するものである。然るに今雷の山上に在るは、居る所小しく高きに過ぎて、萬物鼓舞の用を失へるもので、亦小過の義である。即ち以上の象義より此卦を小過と名づけたのである。而して此卦を中字の次に置いた譯は、序卦傳にも「有其信者必行之。故受之以「小過」とある如く、心に信ある者は必ず物事を進み行ふもので、信は過ぎるを以て宜しとするからである。

◎「飛鳥」此卦内の二陽は鳥の身に當り、外の四陰は鳥の兩翼に當り、全卦の形飛鳥に似たるを以て云ふ。  
◎「晉」上卦震を聲となすの象。◎「遺」下卦艮止の象。

(意 義) 凡そ物事の過ぎると云ふことも、亦及ばぬと云ふことも、共に中道を外れたことではあるが、過ぎたると及ばざるとの間には非常な差違があつて、中庸にも「知者過之愚者不及也。賢者過之不肖者不及也」とある如く、及ばざるとは愚者不肖者のことで取るべき所がないが、その時運の如何により、又その事柄の如何によつて、その義小しく過ぎることは、これを咎むべきでないことがあるものである。例へば人の言行が恭謙に過ぎ、喪に當つて哀愁に過ぎ、財用が儉約に過ぎるが如きは、幾分正道を失ふの嫌ひはあるが、人情の然らしむる所で、敢えて咎むべきではないが如きものである。故に「小過亨」と云つたのである。然し小過にして亨るは、必ずその事が真正なることとなければならぬのであつて、不正なることに過ぎるは、假令それが小であつても凶なるものである。故にこれを「利貞」と云つて戒しめたのである。次に「可小事不可大事」と云つたのは、日常の些細なることは、少しく過ぎる所があつても咎むべきはないが、天下國家の大事の如きは、必ず禮と和とを以て本とすべきであつて、小なりと雖過ぎる所あるは凶であること云ふことを説示してこれを戒しめたのである。次に「飛鳥遺之音。不宜上宜下。大吉」と云つたのは、象義の所で説明せる如く、此卦に飛鳥の貌があるから、これに喩へて又小過の道を説示したのであつて「飛鳥遺之音」と云ふのは、鳥が飛び過ぎて徒にその音を残すことを云へるもので、音のみを聞きてその形を見ざることを云ひ、所謂有名無實の義である。それ鳥が高く飛べば、止り息ふ場所を失ふものであるが

低く下れば、飲啄安棲の場所を得るものであるから、これを「不宜上宜下。大吉」と云つたのであつて、上ると云ひ下ると云へるは、飛鳥に對して云つた辭であるが、此辭の意義を人事に取れば、上るとは亢驕傲慢の義、下るとは卑退謙遜の義で、人が驕慢に流るれば危殆を招き、卑遜の態度を守れば安泰を得て吉なることを得るの意であつて、聖人の驕慢を惡み、謙遜を獎むる意を悟るべきである。此卦の主旨とする所は、意義の説明に於いて明かである。

(占 斷)

◎運 勢 卦辭に「可小事不可大事」とあり、又「不宜上宜下」とある如く、此卦を得たる時、小事は順調に運びて功利を遂げ得べきも、大事は故障齟齬を招きて失敗不利に終る象あれば、大事大望を慎しみ分に應じて進む心掛けが大切であり、又萬事につけて謙遜の心掛けを守り、驕慢に流れて運氣を破り災害を招かざる様戒慎することが肝要である。

◎願望、金談、賣買 亦卦辭に「可小事不可大事」とあるは、小望は成就し、小金は手に入り、小賣買は功利を挙げ得べきも、大望大金は調ひ難く、大賣買は失敗不利を招く象なれば慎しむべし。

◎相場 此卦飛鳥の象あるは、相場上る象なるも、高飛に過ぎて危き象あるは、上げ過ぎて崩落する象あることを示せば、先行き警戒を要す。

◎縁談 卦辭に「不宜上宜下」とあるは、縁談進むべき時期に非ざる象なれば、見合せて時節を待つを吉とす。

◎子 實 此卦陰の陽に過ぎたる象あるは、女兒多くして男兒少き象なり。尙「利貞」と戒しめある如く、養育上正しき注意を缺く時は、兒女の進路を過らしめて不幸を招く憂ひあれば注意大切なり。姪姪此卦陰の勢ひ陽の勢ひに過ぎたる象なるは、女兒の象なり。

◎縁 運 此卦鳥の高飛に過ぎて危きを見る象あるは、男女共に分外の縁を望みて不幸を招く象にて、又上震は動き下艮は止る象にて、二者その性を異にするは、夫妻性格を異にして和合を缺き、不幸を見る象なれば注意を要す。

◎家庭運 亦此卦鳥の高飛に過ぎて危きを招く象なるは、分外の大望を抱き、家を捨て、遠方に出て、不幸艱難に陥る象なれば、「利貞」と戒しめある如く、家業を守り、野望を慎しみて真正謙讓の心掛けを守り、一身一家の安泰を計ること大切なり。

◎壽命、病氣 此卦二陽四陰にして、陰の勢ひ陽の勢ひに勝りたるは、體質弱き象なれば、「利貞」と戒しめある如く、攝生を守りて健康長壽を計り、養生を嚴守し無理を慎しみて病氣の恢復を計る心掛け大切なり。然らば「小過亨」とあれば、相當の壽を保ち、病氣全快の望みあり。

◎待人、走人、失物 此卦鳥の高飛する象あるは、待人來らず、走人高飛びし、失物外に出てたる象なり。上震は東、下艮は東北、その方角を尋ねし。尙「可小事不可大事」とあるは、失物些少の物は出づるも、高貴なるものは出て難き象なり。

◎旅立、爭事 卦辭に「利貞」と戒しめあり、又「不宜上宜下」とあるは、旅立出てざるを吉とし、爭事

中止するを利とする象なり。若しこれに逆ひて進まば、何れも災害不利を招くに至るべし。

◎就職、試験 卦辭に「可小事不可大事」とあり、又「不宜上宜下」とあるは、就職時運を得ずして調ひ難き時なれば時節を待つべく、試験意の如き成績を得ざる象なれば、將來を期して勉強すべし。

◎開業、轉業、移轉 卦辭に「不宜上宜下」とある如く、鳥の高飛に過ぎて危きを招く象なれば、何れも進まざるを可とし、時節の到るを待つを吉とす。

◎天候 此卦二陽四陰にして、陰の勢ひ陽の勢ひに過ぎたるは、天候不良の象なり。

初 六 飛鳥。以凶。

(爻辭讀方) 飛鳥なり。以て凶なり。

(象 義) ◎「飛鳥」此卦上卦の二陰、下卦の二陰を翼となす。故に飛鳥と云ふ。而して初、二、五、上皆翼に當るに、初爻と上爻のみに特に飛鳥の辭を係けたるは、鳥の飛ぶは翼に非ずして羽にあればなり。即ち初上は羽に當ればなり。

(意 義) 小過の時、上るに宜しかず、下るを以て宜しとするものである。初六は今陰柔不中正を以て卦の初め良止の體に居るものであるから、特に上ることを戒しむべきであるのに、九四の應爻上に在るを見て上り進みてこれに應ぜんとするものである。故にこれを「飛鳥」と云つたのであるが、初六の斯くの如きは小過の道に反くものであるから、その凶たることは言を俟たぬ所である。故にこれを「以凶」と云つて戒し

めたのである。要するに此爻、初六の小過の道に反く象を以て、小人匹夫が利慾の爲に權門に媚び諂ふものに喩へ、その凶なることを示し、これを排撃したのである。

(占断)

◎運勢 此爻陰柔不中正にして小過の道に反き、進み上りて上九四に應ぜんとし、「飛鳥。以凶」の象あるは、才徳なき小人にして、利慾の爲に目上の有力者に媚び諂ひ、且僥倖を夢みて分外の大望を企て、災害不利を招くに至る象である。宜しく心を改め徳を守りて、一身の安泰を計る心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「飛鳥。以凶」とある如く、爻意爻象より見て、才徳實行力なくして、分外の大望を企て、大金を望み、大利を得んことを計り、何れも功利を遂げずして、困苦不利に陥る象なり。

◎相場 此爻陰柔を以て最下に在るは、相場安き象なり。而して「飛鳥。以凶」とあるは、無理に相場を釣上げんとして策動する者ある爲に、一時上る如く見ゆるも大勢に反して崩落する象なり。

◎縁談、爻辭に「飛鳥。以凶」とある如く、爻意爻象より見て、凶縁にして纏らざる象なり。

◎子實 此爻陰柔不中正なるは、兒女の才徳なき象にて、然も「飛鳥。以凶」とあるは、分外の野望を抱きて妄動する爲に、凶災に陥る象にて、その爲に不幸悲憐を招くに至る象なり。妊娠此爻陰柔にして、變體離を中女となすは、女兒なり。

◎夫運 此爻陰柔にして上陽剛九五に應和せんとして、小過の道に反き、「以凶」とあるは、身分不相應の縁を望みて思ひを遂げず、不幸を見る象なり。宜しく身の程を考へて均合へる縁を求むべし。

◎妻運 此爻陰柔不中正なるは、柔弱不貞の妻を持ちて、「以凶」とある如く、不幸を見る象なり。

◎家庭運 此爻陰柔不中正を以て最下に居るは、才徳なくして微運の家に生るゝ象なり。然も「飛鳥。以凶」とあるは、身の程を考へずして分外の野望を抱き、妄動に走りて凶災を招き、益家運悲境艱難に陥る象なり

◎壽命、病氣 此爻陰柔なるは體質虚弱の象にて、然も不中正にして小過の道に反き、「飛鳥。以凶」とあるは、攝生養生悪くして短命に終り、病氣絶望に陥る象なり。

◎待人 此爻九四に應和せんとして小過の道に反き、凶の象なるは、待人來らざることを示す。

◎走人、失物 爻辭に「飛鳥。以凶」とあるは、走人高飛びして艱難に陥り居り、判明せざる象にて、失物外に出て、手に返らざる象なり。

◎旅立、争事、就職、試験 爻辭に「飛鳥。以凶」とある如く、爻意爻象より見て、旅立凶、争事不利、就職不調、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「飛鳥。以凶」とあるは、何れも進みて凶災を招く象なれば中止すべし。

◎天候 此爻陰柔不中正を以て、停滞の象良の最下に在るは、天候不良の象なり。

六 一一 過其祖遇其妣。不及其君遇其臣。无咎。

(爻辭讀方) 其の祖を過ぎて其の妣に遇ふ。其の君に及ばずして其の臣に遇ふ。咎無し。

(象義) ◎「祖」九四を指す。九三下卦の上に居るは父の象、九四その上に在るは祖の象なり。◎「妣」



本來は亡母の稱なるも、古人祖母より以上は通じてこれを妣と云ふ。六五を指す。◎「君」六五を指す。◎「臣」九四を指す。宰相の位にあるを以てなり。

(象 義) 易の通例としては、陰陽相應するものは、これを君臣となし、夫婦となしてその配遇を取つて居るが、陰陽相應せざるものはこれを或は父子となし、或は等夷乃ち同輩となし、或は妻となし、妣婦乃ちばよめとなしてその同類を取つて居る。却説六二が九四の祖を過ぎて六五の妣に應じて居るのは古は男の孫は妣に附するものとしたもので、その義に適つて居り、同類相應するもので咎なきものである。即ちこれを「過其祖遇其妣」と云つたのであつて、其の祖を過ぎて其の妣に遇ひたるものは、過ぐべくして過ぎたるもので、小過の道を得て居るものである。而して「不及其君遇其臣」と云つてあるは、君臣の道に於いては同類相應せざるを義とするから、六二が柔中なるが爲に同じく柔中なる六五に及ばずして、九四陽剛の臣に遇つて居るもので、これその義に合つて居つて、即ち及ばざるべくしてこれに及ばぬもので、その分の宜しきを得たるもので、これ亦咎なきものである。即ち六二の爻辭の末尾にある「无咎」と云ふ句は「過其祖遇其妣」と云ふ句と、「不及其君遇其臣」と云ふ句との兩方を受けて居るものであつて、要するに此爻六二が柔順中正の徳を備へて、能く過不及を權衡してその中を得て、失なきことを示したもので六二は小過の道に適ひて、六爻中最善なるものである。宜しく人も亦、此六二の象に鑑みて過不及なき道を守るべきである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻柔順中正を以て小過の時に處り、過不及なくして咎なく、變卦雷風恒となるより見て、進退宜しきに適ひて諸事順調の運びを得、功利を擧げ得る象なり。宜しく分外の慾望を慎しみ、現状の安泰を計るべし。

◎願望、金談、賈買 此爻柔順中正の徳を備へて過不及なく、小過の道に合して咎なきを得、變卦恒となるより見て、願望金談共に分相應の望みは成就する象なるも、分外の大望大金は調はず、賈買實力相應のことは剛利を擧げ得べきも、山氣に走りて大利を焦燥する時は失敗不利を招く象なり。

◎相 場 此爻陰を以て柔に居るは、相場安き象にて、變卦恒となるより見て、先行き持合ふべし。

◎縁 談 爻辭に「无咎」とあれば大體良縁の象にて、爻意爻象より見て、成立を急がずして穩に話を運ばば纏るべし。

◎子 實 此爻柔順中正にして過不及なく、小過の道に合するは、溫順誠實なる兒女を得る象にて、「无咎」とある如く、子供運平安を得べし。妊娠此爻陰柔にして中正を得るは、女兒なり。

◎縁運、家庭運 爻辭に「无咎」とある如く、爻意爻象より見て、縁運家庭運共に平安幸福を得る象にて、特に柔順中正の徳を備ふるは、縁運上男子は溫順貞淑の妻を得、女子は溫厚篤實の夫に添ふ象にて、家庭上誠實にして野望を起さず、家運を守る爲に安泰幸福を得る象なれば、此志を亂さざること大切なり。

◎壽命 病氣 爻辭に「无咎」とある如く、爻意爻象より見て、攝生養生良き爲に健康長壽を得、病氣全快する象なり。

◎待 人 交辭に「過其祖過其妣。不及其君過其臣」とあるは、本人來らずして使ひの者來る象なり。  
◎走人、失物 此交柔順中正にして小過の道に合し、咎なきを得るは、走人高飛びせず、失物外に出てざる象にて、何れも間もなく判明すべし。下艮は東北、變巽は東南、その方角を尋ぬべし。

◎旅 立 交辭に「无咎」とあるは出て吉なる象なるも、交意交象より見て、無理をせず、慎しみを忘れざる心掛け肝要なり。

◎争 事 此交柔順中正の徳を備へ、過不及なくして咎なきもの、争ふは交意に反して凶なり。穩に和解するを利とす。

◎就 職 交意交象より見て、分相應の就職を望みて、急がず氣長に進まば調ふべし。

◎試 驗 交辭に「无咎」とあるは、大體好成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 此交柔順中正にして小過の道に合し、咎なきを得るもの、何れも妄動に走り、無理に流れざらば進みて宜し。

◎天 候 此交陰を以て正に居り、停滞の象艮の中に位するは、天氣不良の象にて、變卦恒となるより見て暫く不良の天候續きて後に晴るべし。

九 三 弗過防之。従或戕之。凶。

(交辭讀方) 過ぎて之れを防がず。従ひて或は之れに戕はる。凶なり。

(象 義) ◎「過」過ぐるは九三過剛不中を以て下卦の極に居ればなり。◎「之」直接には上六の應交を指し、引いて群陰の害を意味す。◎「防」下艮を止むとなし、又坤防となすの象。◎「従」互體巽從の象。

◎「或」巽を進退不果とするの象。◎「戕」傷害の意なり。約象兌を毀折とするの象。

(意 義) 小過の時は陰の勢ひ盛んにして陽を害せんとする時である。故に九三が剛正を以て下卦の極に居るは、衆陰のこれを妬忌して害せんと欲する所であつて、九三たるもの甚だ危しと云ふべきである。然るに九三は過剛不中にして、その剛頑の性これを意に介せず、その害を防ぐことなく、却て應交たる上六の陰邪に應じてこれが傷害を受け、引いては群陰の害を身に蒙る憂ひあるもので、これその凶なる所以である。即ちこれを「弗過防之。従或戕之。凶」と云つたのである。要するに此多、九三の過剛不中を以て危地たる下卦の極に居り、小過の道を失ひて群陰の傷害を受け、凶を招くに至る象あることを説き、以て剛頑にして分外の野望を抱き、中道を失ふもの、凶災に陥るべきことを示して、これを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此交過剛不中を以て危地に居り、小過の道を失ひて群陰の傷害を受け、凶を招くに至るもの、即ち此交を得たる時、艱難なる氣運に處し、剛頑にして志行中庸を失ひ、分外に走りて慎しみを缺き、凶災に陥る憂ひあることを示せば、宜しく溫和篤實を守り、志行を慎しみて分外に走らず、一身の安泰を計る心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 此交過剛不中にして小過の道を失ひ、凶なるもの、妄動に流れて、願望金談成就せず。

賣買妄進して失敗不利を招く象なり。

◎相場 此爻剛を以て陽に居り、下卦の極にあるは、相場高き象なるも、上六の陰柔に應じて、「従或戕之」とあるは、先行き下落する象なり。

◎縁談 爻辭に「凶」とある如く、爻意爻象より見て、凶縁にして纏らざる象なり。

◎子實 此爻過剛不中にして小過の道を失ふ象なるは、強剛にして濫情を缺き、志行粗暴なる兒女を持ち凶とある如く、不幸辛勞を招く象なり。姪姪此爻剛正にして少男の象良の主たるは、男兒なり。

◎縁運 此爻過剛不中にして小過の道に反き、凶なるは、男子は氣性烈しくして柔順を缺く女を妻とし、女子は粗暴にして志行亂るゝ夫に添ひ、共に不幸を見る象なり。

◎家庭運 此爻内外の際たる危地に居るは、艱難なる家に生るゝ象にて、過剛不中にして小過の道を失ひ、凶を招くは、これに處して溫和篤實の心を缺き、志行亂れて益凶運に陥る憂ひあることを示せば、慎しむ肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻剛を以て正に居るは、體質強健の象なるも、不中にして「弗過防之。従或戕之。凶」とあるは、攝生惡しき爲に健康を損じて短命に終り、養生惡しき爲に病勢を危険に陥らしむる象なれば、慎しむ肝要なり。

◎待人 此爻過剛不中にして順徳を缺くは、待人來らざる象なり。

◎走人 此爻上六の陰邪に應じて、「従或戕之。凶」とあるは、惡友に誘惑されて家出せる象にて、身上

に危難あるか、容易に判明せざる象なり。下艮は東北、變坤は西南、その方角を尋ぬべし。

◎失物 爻辭に「凶」とあるは、失物出て難き象なり。

◎旅立 爻辭に「凶」とある如く、爻意爻象より見て、出づるは凶なり。

◎爭事 此爻過剛不中にして小過の道を失し、凶を招く象あるは、強争して不利に陥る象なり。争はざるを吉とす。

◎就職、試験 爻意爻象より見て、「凶」とある如く、就職望みなく、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻辭に「凶」とある如く、爻意爻象より見て、何れも進むは凶なり。

◎天候 此爻陽を以て正に居るは、天氣良好の象なるも、内外變轉の際に居り、上六の陰邪に應じて、その傷害を受くる象あるは、後天候不良となる象なり。

九四 无咎。弗過遇之。往厲。必戒。勿用。永貞。

(爻辭讀方) 咎無し。過ぎずして之れに遇ふ。往くときは厲し。必ず戒しむ。永貞を用ゐること勿れ。

(象義) ◎「弗過遇之」とは九四剛を以て柔に居り、過剛ならざる象を云ひ、遇之とある「之」とは小過の道を指し、小過の道に合することを云ふ。◎「往」上卦震を道路となし、又足となすの象。◎「厲」九四君側危懼の位にある象。

(意義) 九四は九三が過剛妄躁なるが如くならず、剛を以て柔に居り、剛柔宜しきを得て上柔中の六五

に親比し、小過の道を過まらざるものであるから、これを「无咎」と云つたのである。即ち九四は斯くの如く、剛に過ぎずして小過の道に合するものであるから、又これを「弗過遇之」と云つたのである。然し九四が能く咎なきを得るは、不寧なる小過の時に於いて、剛を以て柔に居りて自らを守るが爲であつて、進み往きて功を遂げ得る力のあるものではない。故に若し自己の力を計らずして進み往く様なことがあれば、群陰の害を受けて危難に陥るに至るものである。故にこれを「往厲、必戒」と云つて之を訓戒したのである。次に「勿用、永貞」と云つたのは、九四は剛柔宜しきを得て小過の道に合し、咎なきを得るものではないから、永久にこれに止るべきの道ではないと云ふことを説き示したのである。要するに此爻、九四の象を以て、小過の時に處するの道を説き示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛柔宜しきを得て、小過の道に適ひ、咎なきを得るは、進退宜しきを得て無事を得る象である。然し今群陰の勢ひ盛んなる時にて、然も身君側危懼の位に居るは、運氣艱難の時なることを示せば、「往厲、必戒」とある如く、妄動を慎しみ大事を取りて一身の安泰を計るべきであつて、而して「勿用、永貞」とある如く、機運を計りて時を得ば、此艱難を脱する方策を講ずる心掛けが大切である。

◎願望、金談、賣買 此爻自ら守るに止つて大いに爲すあるべき力なきものにて、「往厲、必戒」とある如く、何れも功利を遂ぐべき才力を缺き、時運未だ至らざる時なれば、才力を磨きて時運の到来を待つべし。

◎相場 此爻陽剛を以て宰相の位に居るは、今相場高き象なるも、本來陰位にして、變卦謙となるより見て、先行き下るべし。

◎縁 談 爻辭に「往厲、必戒」とあるは、縁談進みて凶の象なれば、見合せて時節を待つべし。

◎子 實 此爻剛柔宜しきを得るは、穩健なる兒女を得る象にて、「无咎」とある如く、子供運大體平安の象なるも、大いに爲すべき力なきは、大成功は望み難き象なり。妊娠此爻陽剛を以て宰相の位に居り、長男の象震の主たるは男兒なり。

◎縁運、家庭運 爻辭に「无咎」とあるは、縁運家庭運共に大體平安無事の象なるも、「弗過遇之、往厲、必戒」とあれば、志行を亂し、妄動に流れて運氣を亂さざる心掛け大切なり。

◎壽命、病氣 此爻剛柔宜しきを得て、「无咎」とあるは、攝生養生よき爲に、健康を得て相當長壽を保ち病氣全快を得る象なり。然し「往厲、必戒」とあれば、萬一油斷して攝生養生を怠る時は、健康を損じて壽を保ち難く、病氣危険を招く象なれば、慎しみ肝要なり。

◎待人、走人、失物 爻辭に「无咎」とあり、又「弗過遇之」とあるは、待人來り、走人失物判明する象なり。上震は東、變坤は西南、その方角を尋ねべし。

◎旅 立 爻辭に「往厲」とあるは、出て、危難に遇ふ憂ひあることを示す。「必戒」とある如く中止すべし。

◎争 事 此爻剛柔宜しきを得て咎なきもの、争ふは爻意に反す。「往厲」とある如く、若し強いて争ひを起さば艱難不利に陥る象あれば、「必戒」とある如く中止すべし。

◎就職 此爻自ら守る爲に咎なきを得るものにて、大いに爲す所なきもの、就職意の如く運ばざる象なれば自己の力に及ぶことにて、自活の道を計るを吉とす。

◎試験 爻辭に「无咎」とあれば大體成績良好の方なるも、大いに爲す所なき象なれば、優秀を望み難し

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「往厲。必戒」とあるは、何れも進みて凶の象なり。

◎天候 此爻陽剛にして「无咎」とあり、又變卦謙は平安の象なれば、天候靜穩なり。

六五 密雲不雨。自我西郊。公戈取彼在穴。

(爻辭讀方) 密雲にして雨ふらず。我が西郊よりす。公戈して彼れの穴に在るを取る。

(象義) ◎「密雲不雨」密雲は此卦全卦坎の象をなし、雲の象あるより取る。而して雨は陰陽相調和して然る後に降るもの、今此卦四陰二陽にして陰陽調和せざる象なれば不雨と云ふ。◎「西郊」西は約象兌の象、郊は上卦震を途となすの象。◎「我」及び◎「公」共に六五を指す。六五は君位なるに公と云へるは、易の例、大事には王と稱し、小事には公と稱す。此卦可小事不可大事の時なればなり。又小過は陰盛なる象にして、公は臣の極なるもの、六五は陰盛の極なればなり。◎「戈」飛翔するものを射る道具なり。全卦坎體をなして弓の象あり、上卦震を矢となす。即ち戈の象なり。◎「彼」六二を指す。◎「在穴」全卦坎體の象。又六二二陽を隔て、六五に應ずるの象。

(意義) 六五が陰柔弱才を以て尊位に居り、下に應爻の助けなく、小過の時に當りて天下の事日に非な

るの時に在るは、その德澤萬民に及ばず、大いに爲す所なきものである。即ちこれを密雲を臨むも未だ雨ふらずして、雨澤の萬物に及ばざるに喩へて、「密雲不雨」と云つたのである。而して「我自西郊」と云つたのは、密雲の起るは西よりするものであるからであり、その意は今雨ふらざるも終に雨ふるの理あることを示して居るのである。次に「公戈取彼在穴」と云つたのは、六五が斯くの如く、己れには天下を救ふの才徳なき爲に、下にある柔順中正の賢臣六二に應與を求め、戈を以て穴に在るものを取り、ことに例へて云つたのであるが、六五が斯くの如く六二に下りてその助けを求むれば、小過の時であるから同類相應じてこれを補佐し、六五はその微力弱才を補ふことが出来て、雨澤下りて萬物を潤すが如く、天下にその徳を施すことが出来るに至るものである。これ即ち卦辭の「宜下」と云ふに當るものである。然し五二相應和すると雖、共に陰柔の同類を以て相助くるものであるから、大事を爲すに足らざることは自ら明かである。故にこれを吉と云はないのである。要するに此 六五の小過の時運に處するの道を示したものであるが、これを人事に取れば、人君にして才徳その位を全うするに足らざるものに當るのであつて、これにその取るべき道を示したのであるが、唯に人君のみならず、人の上に立ちて斯くの如きものも亦取つて以て範とすべきである。

(占断)

◎運勢 此爻陰柔不正を以て尊位に居るは、才力乏しくして人の上に立ち、辛苦艱難ある象であるが、六二の助けを得て六五の君が德澤を下に施し得るに至るが如く、目下の才徳あるものゝ援助を求めて進まば、

艱苦を脱してその位地を保ち、功を収め得るものである。然し爻意より見て大事大功は遂げ難き時なれば、分外の大事大望を企てざる心掛けが大切である。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、大望大金は成就せず、大賣買は功利を遂げ難き象なるも、小望小金は成就の望みあり。又小賣買は成功利益を得べし。尙六二との關係より見て、何れも目下の才力あるもの助けを求めて、便宜を得る象あり。

◎相場 此爻陰柔にして、「密雲不雨」とあるは、相場軟弱に持合ふ象なり。

◎縁談 此爻密雲雨ふらざる象あるは、縁談停頓して運ばざる象にして、又良縁ならず。

◎子實 爻辭に「密雲不雨」とあるは兒女に就きて辛勞ある象なるも、六二の助けによりて功を施すに至るものなれば、末には子供の扶助を得て悦びを見るに至る象なり。旣娠此爻柔中にして變體兌を少女となすは女兒なり。

◎縁運 爻辭に「密雲不雨」とあるは、男女共に縁運上故障滯滞を招きて辛勞を見る象なり。

◎家庭運 此爻尊位に居るは、富貴の家に生るゝ象なるも、「密雲不雨」とあるは、家庭に事情纏綿して辛勞ある象にて、然も陰柔不正なるは、才力乏しくしてこれを打開する力なき象なり。宜しく六五が六二の助けによりて、その功德を施し得るが如く、才力ある者を用ゐて此運氣を打開すること肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻陰柔にして、密雲雨ふらざる象あるは、體質虛弱にして健康は障碍多く、従つて長壽を望み難く、病氣經過抄々しからずして長引く象なり。宜しく攝生を守りて健康を計り、養生を專一にして病

氣の全快を計ること大切なり。

◎待人 爻辭に「密雲不雨」とあるは、待人來るが如く見えて容易に來らざる象なり。「公戈取彼在穴」とあれば、自ら出向きたる方可なり。

◎走人、失物 亦爻辭に「密雲不雨」とあるは、走人失物共に容易に判明し難き象なるも、「公戈取彼在穴」とあれば、走人遂に潜伏せるものを發見し、失物何かの中にあるか、何所かに陥り居るものを發見する象なり。土震は東、變兌は西、その方角を尋ぬべし。

◎旅立 爻辭に「密雲不雨」とある如く、氣運停滯の象なれば出てざるを吉とす。

◎爭事、就職 爻辭に「密雲不雨」とあるは、何れも障礙ありて長引く象なるも、「公戈取彼在穴」とあれば、爭事終に利を得、就職望みを遂ぐるに至るべし。

◎試験 此爻密雲雨ふらざる象あるは、成績思はしからざる象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻「密雲不雨」とある如く、氣運停滯の象なれば何れも進まざるを可とす。

◎天候 此爻陰柔にして、密雲雨ふらざる象あるは、天氣不良にしてぐづつく象なり。

上六 弗遇過之。飛鳥離之。凶。是謂災眚。

(爻辭讀方) 遇はずして之れに過ぐ。飛鳥之れに離る。凶なり。是れを災眚と謂ふ。

(象義) ◎「弗遇」小過の時、九三と應ぜざる象を取りて云ふ。◎「過之」小過の道に過ぐるなり。道

を失ふなり。上六重陰不中にして卦極に在る象より云ふ。◎「飛鳥」全卦の形象、初六の項を参照すべし。  
◎「離」之離は罹るなり。飛鳥網に罹るを云ふ。上六變すれば離となり、離を網となし、麗くとなすの象より取る。◎「災青」全卦大坎の象より取る。

(意 義) 此爻重陰不中にして小過の卦極に居るは、陰の過ぐるに甚しきもので、従つて危難の甚しきものである。然し若し九三の應爻に下りて應じて陰陽相救助すれば、此危難を免れ得ぬものではないが、上六は重陰不中を以て卦極に居り、自ら亢ふりて下ることを知らざるものであるのみならず、九三も亦過剛不中を以て小過の時に居り、これに應和せざるものである。故にこれを「弗遇過之」と云つたのであつて、上六の過陰にして小過の道に過ぎ、その道を失へることを示したのである。それ上六が斯くの如く、高亢傲慢にして謙讓の徳なく、危難に陥るは、恰も鳥が飛ぶこと高きに過ぎて止息する所を失ひ、終には網に罹るの難に遭ふと同様である。故にこれを「飛鳥離之凶」と云つたのである。而して「是謂災青」と云つたのは、上六にして斯くの如くならば、天災、人責の至るべきことを示したのであつて、聖人の戒しむる所深きを見るべきである。要するに此爻、上六の重陰不中を以て卦極に居り、小過の道を過ぎ、その道を失へることを説き、人の驕慢不遜にして謙讓の徳を缺くもの、凶災に陥るべきことを示して、深くこれを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻小過の時に當り、重陰不中を以て卦極に居り、過陰甚しく、道を失ひて飛鳥網に罹る象ある

は、分を知らずして傲慢不遜に流れ、災害を招き危難に陥る象である。切に身を慎しみ、心を正しくして、以て凶災危難を免るゝ心掛けが緊要である。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、分を悟らずして徒に大望を企て、大金を夢み、大手の賣買に手を出し、急進妄動して何れも功を遂げざるのみならず、凶災危難に陥る象なれば慎しむべし。

◎相 場 此爻重陰を以て卦極に居り、飛鳥網に罹る象なるは、相場崩落する象なり。

◎縁 談 爻意爻象に示す如く、大凶縁なり。絶對に見合すべし。又纏めんと欲するも絶望の象なり。

◎子 實 此爻重陰不中にして卦極に居り、亢高にして道を失ひ、凶災の象あるは、強剛不遜にして志行亂れ、災厄危難に陥りて身を亡すに至る兒女を持ち、艱苦不幸甚しき象なり。妊娠此爻陰を以て正に居り、變體離を中女となすは、女兒なり。

◎縁運、家庭運 此爻飛鳥網に罹る象あり。又一「是謂災青」とあるは、縁運家庭運共に、不幸艱難甚しき象なり。又重陰不中を以て小過の極に居るは、傲慢不遜に流れて順徳を失ひ、志行亂るゝ爲に不幸を招く象なれば、慎しみ特に緊要なり。

◎壽命、病氣 此爻重陰なるは體質虚弱の象にて、不中を以て卦極に居り、道を失ひて凶災に陥る象なるは攝生養生を缺きて短命に終り、病氣恢復望みなき象なり。

◎待 人 爻辭に「弗遇過之」とある如く、此爻應爻九三と應和せざるは、待人來らざる象なり。

◎走 人 此爻飛鳥網に罹る象あるは、走人高飛びして身上危難あることを示し、「弗遇過之」とあるは、

居所判明せざる象なり。上震は東、變離は南、その方角を尋ね見るべし。

◎失物 此爻飛鳥網に罹る象あるは、外に出て人手に渡れる象にて、「弗遇過之」とある如く、出てざる象なり。

◎旅立 此爻飛鳥網に罹るの難に遇ふ象なるは、出て、危難に遭ふ象なれば中止すべし。

◎爭事、就職、試験 爻意爻象より見て、争ひて破れ、就職望みなく、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻飛鳥網の難に遇ふ象なるは、何れも進みて凶災を招く象なれば、中止すべし。

◎天候 此爻陰を以て正に居り、不中なるは、天氣不良の象にて、變卦旅となるは天候定まらざる象なり。

水火既濟 既濟亨。小利貞。初吉終亂。

(卦辭讀方) 既濟は亨る。小は貞に利し。初めは吉にして終りは亂る。

(象 義) 「既濟」既濟とは物事が既に濟ひて成就せる義である。此卦、六爻皆相應じ、六爻皆相比し、且六爻皆各その正位を得て居り、二五共に中正の徳を備へて居る。是れ、易に於いて貴び重んずる所の義が悉く備つて居るもので、即ち整濟の象である。故にこれを既濟と各づけたのである。又此卦、離火を下にし坎水を上にする。これ水火陰陽相交りてその用をなし、萬事既に濟ふ象で、既濟の義であり、又坎の中男上に在り、離の中女下に在るは、男女各その所を得て、嫁娶既に成るの象で、既濟の義である。即ち以上の義

よりも此卦を既濟と名づけたのである。而して此卦を小過の次に置いた譯は、序卦傳にも「有過物者必濟。故受之以既濟」とある如く、物事を成すに當つて、自己の力以上を盡して努力するものは、必ずその成功を見るに至るものであるからである。

◎「小」小利貞とある小の字の意味に就いては、古來色々の説があつて一定せず、大島中堂氏はこれを衍文即ち誤れる餘分の字と斷定して居る。予も小利貞と云ふ句の儘て意を解し様とすると、どうしても無理になつて、卦辭全體の意味が明確に説けぬことになるから、衍文と見た方が正しからうと信ずるのである。◎

「初吉終亂」既濟終れば未濟となるの意象、又初吉は内卦離明の象、終亂は外卦坎險の象。

(意 義) 既濟は象義の所に於いても説明せる如く、物事が既に濟ひて皆成就せる義であるが、これ即ち物事の亨通することを現すものである。故にこれを「既濟亨」と云つたのである。次に「小利貞」とある小の字は衍文であつて、單に利貞として解すべきであつて、即ちその意は、萬事が既に濟ひて成就せる既濟の時當つて、これを永久に確保するの道は、貞正堅固なる志行を以てこれに處するにあると云つて、これを戒しめたのである。次に「初吉終亂」と云つたのは、凡そ物盛んなれば衰へ、滿つれば缺くることは、天地自然の常理であり、天下の治亂成敗は、恰も交へる繩の如きもので、即ち成るは敗るゝの始め、濟ふは亂るの始めであることは、天運循環の理であるから、初吉終亂と云つて、物事の整濟成就の時である、既濟の時を於いて、將來に對する注意を説き、深くこれを戒しめたのである。此卦の要旨は、改めてこれを説かずとも、意義の説明によつて明かである。



(占 斷)

◎運勢 此卦物事の既に済みて成就せる象を現せるもの、即ち此卦を得たる時、諸事功利を遂げ、氣運隆盛安泰を得たる象であるが、「初吉終亂」とある如く、運氣満ちて亂れを生ぜんとする憂ひあるから、「利貞」と戒しめある如く、安心油断を戒しめ、堅忍貞正の精神を守り、進退行動を慎しみて、永く此運氣を確保する心掛けが大切である。

◎願望、金談、賣買 卦辭に「既濟亨」とある如く、卦意卦象より見て何れも功利を遂げ得る象なるも、「初吉終亂」とある如く、安心油断より折角成就を見、利益を収めたるものを消失するに至る憂ひあれば、「利貞」とある如く心を引締めて終りを全うする心掛け肝要なり。

◎相場 此卦初の運氣盛にして後亂る、象あるは、相場一時上りて後下る象なり。

◎縁談 卦辭に「既濟亨」とあるは、纏る象なるも、卦意の戒しめを忘れて慎しみを缺く時は、「初吉終亂」とある如く、破談となる憂ひあれば注意を要す。又縁としては卦意卦象より見て、初め吉にして末凶なる縁なり。

◎子 實 卦辭に「初吉終亂」とあるは、子供運初めは吉祥幸福を得るも、末に不幸辛勞を招くに至る象なれば「利貞」と戒しめある如く、萬事に慎しみを守りて吉運を確保し、末の悲しみを招かざる様心掛くると大切なり。妊娠此卦坎の中男、離の中女の上にあるは、男兒の象なり。

◎縁運、家庭運 卦辭に「初吉終亂」とある如く、卦意卦象より見て、縁運家庭運共に初め吉運幸福なるも

末に亂れを招き、困苦不幸を見るに至る憂ひあれば、「利貞」と戒しめある如く、志行を正しくし、安心油断を慎しみて、終りを全うする心掛け大切なり。

◎壽命、病氣 亦此卦初め吉にして終り亂る、象あるは、健康長壽なるが如く見えて、中年後健康を損じて短命に終り、病氣一時恢復に向ひて再び悪化し、不幸を見る憂ひあることを示せば、「利貞」と戒しめある如く、攝生養生を嚴守して、健康長壽を全うし、病氣の全快に努むること大切なり。

◎待人、走人、失物 卦辭に「既濟亨」とあるは、待人來り、走人判明し、失物出づる象なるも、「初吉終亂」とあるは、待人來るも期待に反し、走人再び家出する恐れあり、失物再び紛失を見る憂ひあることを示せば注意を要す。上坎は北、下離は南、その方角を尋ぬべし。

◎旅 立 既濟は亨るとあるは、出で、吉なる象なるも、慎しみを失ふ時は、「初吉終亂」とある如く、結局旅行の目的を遂げずして不利に終る憂ひあることを示せば、注意大切なり。

◎爭事、就職、試験 卦辭に「初吉終亂」とある如く、卦意卦象より見て、爭事初め有利に見えて結局不利に終り、就職調ふも永續せず、試験今回は成績良好なるも次回は不成績を招く象なれば、何れも調子に乗りて安心油断に流れず、志行を慎しみて運氣の永續確保を計る心掛け大切なり。

◎開業、轉業、移轉 既濟の時、卦辭に「利貞」とある如く、進むよりも退き守るを吉とする時なれば、何れも見合す方可なり。

◎天 候 卦辭に「初吉終亂」とあるは、天候今良好にして後不良となる象なり。

初九 曳其輪。濡其尾。无咎。

(爻辭讀方) 其の輪を曳き、其の尾を濡す。咎無し。

(象 義) ◎「曳其輪」互體坎を輪となし、初九その下に在るは、即ち輪を曳く象なり。◎「濡其尾」又互體坎を狐となし、水となす。初九その下に在るは狐尾の象にて、坎水に接するは濡す象なり。

(意 義) 初九は剛を以て陽に居り、その性炎上する離火に體し、上六四に應ずるは、上に進まんとする志の強きものである。然るに今既濟の時て退き守るを吉とし、進み上れば必ず悔咎を招くに至るものである。故に初九がその志を遂げんとして強ひて進めば、咎を受くるに至るのであるが、幸にして離に體して明察の心があり、位正しきを得て居るから、その進み上るべからざるを悟りて妄進せざる爲に、能くその咎なきを得るものである。即ちこれを「曳其輪、濡其尾。无咎」と云つたのであるが、曳其輪、濡其尾と云つたのは、車は轅を前より引けば進み行くものであるが、後から輪を引けば進行せぬものであり、又獸類が水を渉る時には必ずその尾を捲上げて進むものであるが、若しその尾を垂れて水に濡らす様になつては、既に氣力の疲れたる證據で、能く水を渉ることが出来ないものである。即ち以上の二つの義に喩へて、初九の進み上らざることを示したのである。要するに此爻、初九の象を以つて、既濟に處する道を説き示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陽剛を以て離に體し、進み上らんとする志あるも、離明の心ありて正位に居るを以て、既濟の時進むべからざるを悟り、進み上らざる爲に咎なきを得るもの、即ち此爻を得たる時、才力を備ふるも時運非にして、物事に進むべからざる時なれば、宜しく初九の如く忍耐自重して時節の到来を待つ心掛けが肝要である。若し此運氣に逆ひて妄進せば、災害不利に陥る憂ひがある。

◎願望、金談、賣買 此爻既濟の時に居るは、何れも進むべき時機に非ざることを示す。宜しく初九の止るが如く、自重して時運の到来を待つべし。

◎相 場 此爻剛を以て陽に居るは、相場底意強き象なるも、最下に在りて時を得ず、變卦蹇は進むこと難む象なれば、機會未だ熟せずして伸び悩む象なり。

◎縁 談 此爻既濟の最下に居りて進むべき時運に非ざることを示す。宜しく初九の妄進せざるが如く、自重して時節を待つべし。

◎子 寶 此爻剛正にして離明に體するは、才力明智を備ふる兒女を得る象なり。然し最下に在るは、時運を得ずして成功遅き象あり。姪姪此爻剛正にして、變體艮を少男となすは、男兒なり。

◎縁 運 此爻剛正を以て離明に體するは、男子は氣性強く明敏にして美人の妻を得、女子は才力明智を備ふる夫に添ふ象なり。然し妄進を戒しむるは、縁を定むるに當りて、自重の念を缺く時は、折角の運氣を逆轉する惧れあれば慎しむべし。

◎家庭運 此爻最下に居るは、微運の家に生るゝ象なるも、剛正を以て離明に體するは、才力明智を備ふる

象なれば、爻意に戒しむる如く、妄動を慎しみて、耐自重せば、時運に乗じて身を立て家を興すに至るべし。  
◎壽命、病氣 此爻剛正なるは、體質強健の象なれば、爻意に戒しむる如く、妄動を慎しみて攝生養生を守らば、「无咎」とある如く、長壽を保ち、病氣全快すべし。

◎待 人 此爻陽剛を以て離に體し、進み上る志強きものあるは、來意あることを示すも、時を知りて進まざるものなれば、周囲の事情を考へて思ひ止り、來らざる象なり。

◎走 人 此爻進み上る志強き象なるは、高飛びせんとする意志にて家出せる象なるも、時を知りて止るものなれば、思ひ返して遠方に走らざる象なり。「无咎」とあれば無事にて判明すべし。下離は南、變艮は東北その方角を尋ぬべし。

◎失 物 此爻止りて妄進せざるものにして、又變艮を止るとなすは、外に出てざる象なり。「无咎」とあれば出づべし。方角走人に同じ。

◎旅立、爭事 此爻陽剛を以て離に體し、進む志強きも、既濟の時を知りて進まざる爲に咎なきを得るもの何れも進まざるを吉とす。

◎就職 此爻既濟の初めに居り、進むべき時に非ざる象なれば、初九の如く自重して時運の到來を待つべし。

◎試験 爻辭に「无咎」とあるは、大體良好の成績を得る象なり。  
◎開業、轉業、移轉 此爻既濟の初めに居り進むを戒しむるものにて、初九此時を知りて妄進せざる爲に咎なきを得るもの何れも思ひ止るべし。

◎天 候 此爻陽を以て正に居り、離明に體するは、天氣良好の象なり。

六一 婦喪其葦。勿逐。七日得。

(爻辭讀方) 婦其の葦を喪ふ。逐ふこと勿れ。七日にして得ん。

(象 義) ◎「婦」六二妻位の象、又離を中女となし、六二中正を以てその主たる象。◎「葦」婦人の首飾なり。離を文飾となすの象。◎「喪」互體坎を盜となすの象。◎「七日」卦は六爻より成る。即ち七變すれば一周して亦始るの義より取れるものにして、日は又下卦離日の象なり。

(意 義) 上坎は中男の象下離は中女の象であり、又九五は夫の位、六二は妻の位であるから、坎離の主爻と二五の位との象を取つて、此爻、夫婦の義を以て辭を係けたのである。却説六二は九五の應爻に陰陽相應せんとするものであるが、今既濟の時て、天下の治功既に成りて、九五の君は意滿ちて心に怠りを生じ、賢に下りてこれを用ゆる志がないものであり、六二亦三四兩爻に阻まれ、初三兩爻の間に陥りて、九五の君に近づくことを得ぬものである。これ恰も婦の夫に遇ふを得ざるが如きものである。故にこれを「婦喪其葦」と云つたのであるが、葦は首飾で、婦人がこれを失ひて身の飾りなきが爲に、外出することを得ぬ義に喩へて、六二の九五と應ずるこの出来ぬことを説いたのである。然し本來六二と九五とは、共に中正を以て陰陽相應じて居るものであるから、その正しき道は終に亡び去るべきものでなく、今時非にして相應すること

が出来ぬけれども、六二たるものが自ら守つて本分を失はなければ、必ず時運が巡り来つて、九五に應和し得る時節が来るものであるから、六二たるものは、今直に九五に應ぜんとして焦躁することなく、自然の時を待つべきであると云ふことを、「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」と云つて、六二に教へ諭したのである。要するに此爻、六二の象を以て、人の時運を得ざる時は、その本分を守りて時節を待たば、必ずその望みを遂ぐるに至るべきものであることを説き、且正道の必ず失はれざることを示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻九五に應ぜんとしてその志を果さざる象なるは、時運非にして物事齟齬し、失望を見る象である。然し柔順中正の徳ありて、爻辭に「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあるは、元來志行正しく徳ある人なれば、悲觀焦躁せずして時を待たば、運氣自然に順調に向ひ来りて、志を遂げ功を得るに至るものである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「婦喪<sub>ニ</sub>其弗<sub>一</sub>」とあるは、願望金談不調を見、賣買失敗不利を招く象なるも、又「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあれば、失望落膽せずして時節を待たば、時運到来して願望金談成就し、賣買失敗損失を回復し得る象なり。

◎相場 此爻陰を以て正に居るは相場安き象なるも、變卦需となるより見て、先行きは上る望みあり。

◎縁 談 此爻九五に應ぜんとする意を遂げざるは、縁談破るゝ象なるも、「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあれば、求めずして間もなく良縁を得る象なり。

◎子 寶 此爻柔順中正なるは、温順實直なる兒女を得る象なり。妊娠此爻柔正を得、中女の象離の主たる

は、女兒なり。

◎夫 運 此爻九五の夫に應ずる能はざるは、意中の男子に添ひ難き象なるも、「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあれば、失望悲觀せずとも良夫を得て幸福を見る象なり。又「婦喪<sub>ニ</sub>其弗<sub>一</sub>。勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあるは、一度夫に死別し、再縁して幸福を得る象あり。

◎妻 運 此爻柔順中正なるは、温順貞節の妻を得る象にて、又離明の主たるは美人の象なり。

◎家庭運 此爻九五に應ずる能はずして、時運非なる象あるは、初め家庭運振はざるも、柔順中正にして「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあれば、志行正しく順徳ある爲に、次第に運氣開けて幸福に至る象なり。

◎壽 命 此爻陰を以て柔に居るは、體質虚弱の象なるも、中正の徳ありて後に吉を得る象あるは、攝生よき爲に健康を得て壽を保つ象なり。

◎病 氣 爻辭に「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあるは、心配することなく、自然に恢復する象なり。

◎待人、走人、失物 亦爻辭に「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあるは、待人稍遅るゝも来り、走人間もなく判明し、失物自然に出づる象なり。下離は南、變乾は西北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、争事 此爻九五に應ぜんとする志を得ず、時運非なるもの、爻辭に「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあるより見て旅立急がずして時機を待つべく、争事亦冷靜にして時を待たば、自然有利に解決すべし。

◎就職、試験 亦此爻九五に應ずる志を遂げざるは、就職急に調はず、試験意の如き好成绩を得ざる象なり然し「勿<sub>レ</sub>逐。七日得」とあれば、焦躁らずして時節を待たば、就職の氣運自然に到るべく、試験次回は好成

績を得べし。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも今直に進むべき時に非ず。「勿逐。七日得」とある如く、急がずして今暫く時節を待つべし。

◎天 候 此爻陰を以て陰位に居り、變卦需となるは、雨天の象なり。

九 二 高宗伐鬼方。三年克之。小人勿用。

(爻辭讀方) 高宗鬼方を伐つ。三年にして之に克つ。小人は用ること勿れ。

(象 義) ◎「高宗」殷の武帝の廟號にして、商室中興の賢主なり。九三重剛にして離明に體する象を取りて云ふ。◎「鬼方」北方夷狄の稱、互體坎を北となし、鬼となすの象より取る。「伐」離を戈兵となすの象。◎「三年」久しきの意、内卦三爻の象。◎「克之」九三變じて震となるの象。又坎水離火相剋の象。

(意 義) 此爻下卦の極にして、既済中の既済より、將に既済中の未済に移らんとする時で、既済の世と雖、太平の久しき、紀綱漸次に緩み、これを革むべき必要を生ずるに至れるものである。而して、此爻不中なりと雖、剛正を以て離體に居り、その剛武能く弊を革めてこれを濟ふの力あるものである。即ち「高宗伐鬼方」とはこの義を象つて云つたのであるが、これ、高宗がその剛明の資を以て、商室中興の功を遂げたる事蹟が、九三の象義に合致して居るから、これを喩へに引いて辭を係けたのである。而して「三年克之」と云つたのは、高宗の賢剛を以てするも、その中興の功を遂ぐるに三年の久しきを要せることを以て、九三の

弊を革むることの艱難甚しきことを示したのである。次に「小人勿用」と云つたのは、太平の世小人の勢を得るは免れざる所であり、改革の實を擧ぐるに當つて、これ等の小人を用ゐるは、一弊を革めて又一弊を生ずるものであるから、斯くの如き小人を用ゐることなく、宜しく高德賢明なる士を用ゐるべきであると、これを戒しめたる辭である。要するに此爻、既済の時も三に至れば、太平の久しき弊を生じ緩みを來し、その改革の必要を見るに至ることを説き、これに處するの覺悟と道とを示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻既済の時三に至りて弊を生じ、改革の要を見るに至れることを示すもの、即ち此爻を得たる時、平安無事に過ぎて亂れを生じ、衰運を招くに至る憂ひあることを示せば、宜しく剛健の精神を奮起して弊を救ひ亂れを妨ぎ、以て運氣の安泰を永續する心掛けが肝要の時である。尙爻意爻象より見て、艱難辛勞、物事の亂れ、親しき間柄に不和を生ずる象等があるから注意を要する。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「高宗伐鬼方。三年克之」とある如く、何れも成功極めて困難の象なれば、九三の剛正離明にして改革の實を擧げ得るが如く、強固なる意志と機を察するの明敏とを以て進む心掛け肝要なり。尙「小人勿用」と戒しめあるは、不善なる者を用ゐて成功上不利を招く憂ひあることを示せば注意すべし。

◎相 場 此爻重剛を以て離火の極に在るは、相場高き象なるも、變革の際に當り、變卦屯は仲悩む象なれば、先行き相場轉換の兆を示し、不勢に伸び悩むべし。

◎縁談 爻辭に「高宗伐鬼方。三年克之」とあるは、縁談の成立極めて困難の象なり。又縁としては既濟太平の時、漸く亂れんとする象なるは、初め吉にして未亂るゝ縁なり。

◎子實 此爻重剛を以て離明に體し、商室中興の主たる高宗の象あるは、剛才明敏の兒女を得て、家道の興隆を見る象なるも、過剛不中なるは稍親に對して柔順を缺く嫌ひあり。妊娠此爻剛正にして變震を長男となすは、男兒なり。

◎縁運 此爻既濟中の既濟より、既濟中の未濟に移り、弊を生ぜんとする象あるは、初め縁運吉祥幸福を得るも、それに狎れて心に緩みを生じ、中年より亂れを見る憂ひあることを示せば、男女共に中年に於いて心身を緊張革新し、安泰幸福を確保して、終りを全くする心掛け肝要なり。

◎家庭運 此爻既濟太平の世久しきに亘りて、弊を生ずる象あるは、安泰無事の家を生れてこれに狎れ、心身に緩みを生じて志行亂れ、身を破り家を傾くる憂ひあることを示せば、常に心身を緊縮して生來の幸福を全うする心掛け肝要なり。又家運衰退の時に生れたるものは、「高宗伐鬼方。三年克之」とある如く、剛明の資を以て艱難を凌ぎ、家運を復興する象なり。

◎壽命 此爻剛正を以て離の極に居るは、生れつき健康長壽の象なるも、既濟の久しき、弊を生じて亂れんとする象あるは、健康に驕りて、攝生を怠り折角の天壽を破る憂ひあれば慎しみ肝要なり。

◎病氣 此爻内外の際たる危地に居り、高宗鬼方を伐ちて三年の久しきに亘る象あるは、病氣重く、恢復極めて困難にして長引く象あることを示せば、堅忍の精神を以て病魔を克服する決心を要す。

◎待人、走人、失物 此爻高宗鬼方を伐ちて、中興の功を治むること三年の久しきに亘りて艱難を嘗むる象あり。又變卦屯は物事の行悩む象なれば、待人來らず。走人容易に判明せず、失物出て難き象なり。下離は南、變震は東、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立 此爻變革の時にて時運艱難を示せば、旅立出てざるを吉とす。

◎爭事、就職、試験 爻辭に「高宗伐鬼方。三年克之」とあるは、爭事極めて艱難にして、就職容易に望みを遂げ難く、試験難關に遭遇する象なり。然し堅忍不拔の精神を以て進まば、爭事終に勝利を得、就職功を奏し、試験難關を突破し得る象なり。

◎開業 爻辭に「高宗伐鬼方。三年克之」とある如く、此爻時運極めて艱難の象なれば、開業後非常に困難に遭遇する象あるも、堅忍不拔の精神を以てこれに當らば、遂に成功を克ち得るに到るべし。

◎轉業、移轉 此爻弊を革むべき要ある時なれば、斷然たる決心を以て轉換すべし。

◎天候 此爻陽を以て正を得るは、天氣良好の象なるも、變卦屯となるより見て、後不良となるべし。

六 四 繻有衣袽。終日戒。

(爻辭讀方) 繻に衣袽有り。終日戒しむ。

(象義) ◎「繻」滲漏の意、船の隙間より水の浸入し來ることを云ふなり。六四約象離の舟の主爻にして、二つの坎水の間に在る象より取る。◎「衣袽」水の浸入し來る舟の個所へ當て、これを妨ぐものを云

ふ。即ち破れ布の類なり。六四陰爻の象、又坎の象。◎「終日」六四に至り、離日終りて坎の月生ずる象。  
(意 義) 六四は、既既済に中を過ぎて、既済中の既済既に終つて、既済中の未済に移つた時である。是れ、亂、治中に伏するの象で甚だ危く、大いに戒しむべきの時、これを喩ふれば、舟に隙があつて水の浸入する憂ひがあり、衣袂を以てこれを防がざれば、覆没の難に遭ふが如きものであり、又一日中間断なく警戒する所がなければ、危険に陥るに至るが如きものである。然るに六四は柔を以て正に居り、位正しきが故に、能く危きを知りて疑懼する爲に、此の危険時を免るゝことを得るもので、即ち衣袂あり、又終日戒しむるものである。故にこれを「濡有衣袂。終日戒」と云つたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻既済既に中を過ぎて、危き象あり。大いに戒しむべき時なるは、氣運既に傾かんとして艱難危険身に迫る象あることを示せば、爻意に戒しむるが如く、切に自重戒慎してこれを免るゝ心掛けが肝要である。此心掛けを守りて進めば、六四が柔正にして能くその危険を免るゝが如く、危険艱難の運氣を免れて無事を得るものである。

◎願望、金談、賣買 此爻危難迫らんとするの時、氣運を得ざる象なれば、何れも進みて失敗不利を招く憂ひあれば、「終日戒」とある如く、自重して時節を待つべし。

◎相場 此爻陰を以て柔に居り、破舟浸水の象あるは、相場下る象なり。

◎縁 談 此爻破舟の象あるは、縁談纏らざる象にして又爻意より見て、縁としても凶縁なり。

◎子 實 此爻柔を以て陰に居るは、性質温順の兒女を得る象なるも、過柔にして破舟の象あるは體質虚弱なることを示し、危難甚しき象あるは、子供に就きて辛苦多き象なり。妊娠此爻陰を以て正に居り、變兌を少女となすは、女兒なり。

◎縁 運 此爻柔正を得るは、男子は柔順なる妻を得、女子は温和なる夫に添ふ象なるも、危難甚しく破舟の象あるは、思掛けぬ故障災難の爲に辛勞を招き、破鏡の悲しみを見るが如き恐れあれば、日常慎重なる注意を守ること大切なり。

◎家庭運 此爻既済既に中を過ぎ、安泰の氣運亂れて危難甚しきに至る象なるは、安泰幸福なる家に生れしもの、途中にて家運の衰退を招き、辛勞艱難に陥る象あることを示せば、細心堅實の心掛けを守りて、家運の安泰と身上の安定を計ること肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻陰を以て柔に居るは、體質虚弱の象にて、既済中を過ぎて破舟の象あるは、中年に至りて壽命上に危機を招き病氣危険の恐れあることを示せば、爻意に戒しむる如く、攝生養生を嚴守して壽を保ち、病氣の恢復を計ること大切なり。

◎待 人 此爻破舟に乗りて河を渡るの象あるは、待人故障を生じて來らざる象なり。

◎走人、失物 此爻既済中を過ぎて、危難甚しき象あるは、走人の身上に危険あり、失物出て難き象なり。

上坎は北、變兌は西、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立、争事 此爻危難甚しき象なるは、旅立出て、災難に遭遇し、争ひて艱難困苦に陥る憂ひある象なれ

ば、「終日戒」とある如く、何れも中止すべし。

◎就職、試験 此爻既濟、中を過ぎて亂れを招き、危難甚しき象なるは、就職調ふ如く見えて破れ、試験安心油断より失敗を招く象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「終日戒」とある如く、此爻進むを戒しめ退き守るべきことを示すものなれば、何れも中止すべし。

◎天 候 此爻既濟の時中を過ぎて亂れを生じ、變卦革となるは、良好なる天候變化して險惡となる象なり

九五 東隣殺牛、不如西隣之禴祭實受其福。

(爻辭讀方) 東隣の牛を殺すは、西隣の禴祭して實に其の福を受くるに如かず。

(象 義) ◎「東隣」九五を指す。陽を東方となすを以てなり。◎「殺牛」供物の豊かなることを現し、盛祭の意なり。離を牛となし、坎を刑となす。乃ち牛を殺す象となす。◎「西隣」六二を指す。陰を西方となすを以てなり。◎「禴祭」禴は夏の祭のことにて、夏の祭は供ふる所薄きもの、乃ち禴祭は、薄祭の意なり。坎を素朴となし、飾りなしとするの象。◎「福」離を貝となすの象。

(意 義) 九五は剛健中正を以て、既濟の時に當り、君位に居るもので、これ勢ひ盛んなるものがあるが既濟の時既に中を過ぎて、衰退の兆將に萌せるの時である。故に此時に當りては、守るべき所儉素孚誠にある。それ神を祭ることの主旨とする所は、その形式の華美に非ずして、孚誠の有無如何にあつて、孚誠あり

て始めて鬼神の冥助を受くることが出来るものである。即ち此爻「東隣殺牛、不如西隣之禴祭實受其福」と云つて、九五が勢威盛んなる爲に、神を祭るに當つて、牛を殺して豊富なる供物を供へるよりも、六二が祭ること薄きも、その祭るに孚誠あるが爲に、神福を受くること大にして、これに勝ることを説き、九五の時、儉素孚誠を重んずべきことを示したのである。要するに此爻、九五の時、既濟既に中を過ぎて衰退の兆萌せる象なれば、孚誠を以てこれを戒しむべきの義を以て、治世承平の世に君たるもの、驕奢の弊を生じ、誠敬の實を怠りて、治道敗亂の懼れあることを示し、これを戒しめたのであるが、唯に人君たるのみならず人の上に立つもの、取つて以て戒しめとすべき所である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛健中正を以て君位にあるは、人の上に立ちて氣運盛大の象あるも、既濟中を過ぎて、衰退の兆萌せる時なるは、盛運漸く傾かんとする憂ひある象なれば、爻意に戒しむる如く、儉素孚誠の心掛けを守り、驕奢安佚を慎しみて、盛運を確保することが大切である。

◎願望、金談、賣買 此爻既濟の道全きを得たる時にて、運氣盛大の象なるは願望金談成就し、賣買功利を遂ぐることを示すも、既濟中を過ぎて亂る、兆あるは、成功を得たる爲に驕慢心を生じ、安佚に流れて運氣を破り、災害不利を招くに至る懼れあれば、慎しむ肝要なり。

◎相場 此爻剛正を以て君位の高さに居るは、相場高き象なるも、濟既中を過ぎて衰退の兆あるは、先行き崩るゝ象あることを示せば、警戒を要す。



◎縁談 此爻既済の道全きを得たる終なるは、縁談纏る象なり。而して縁としては既済中を過ぎて亂るゝ象なれば、初め吉なるも安逸に流れ夫婦間の緊張を缺きて、中年後不幸を見る憂ひあれば戒慎を要す。

◎子實 此爻既済の時に當り、剛健中正を以て君位に居るは、才力を備へて大いに成功を得る兒女を得て幸福の象なるも、既済中を過ぎて亂るゝ象あるは、慢心を生じて中途にて失敗挫折を見る憂ひあることを示せば、注意肝要なり。旣娠此剛健中正を以て君位に居るは、男兒の象なり。

◎縁運、家庭運 此爻剛健中正を以て君位に居り、既済の道全きを得て盛大の象なるは、縁運吉祥幸福にして、家庭運、才力を備へて富貴の家に生れ、盛大幸福の象なるも、既済中を過ぎて亂るゝ象あるは、驕慢安佚に流れて運氣を破り、縁運家庭運共に中年より亂れを招き、不幸に陥る憂ひあれば戒慎を要す。

◎壽命、病氣 此爻剛健中正にして、既済の道全きを得て盛大の象なるは、健康長壽にして、病氣全快を得る象なるも、爻意より見て油断に流れ、攝生養生を怠りて天壽を失ひ、病氣を危険に陥らしむる憂ひあることを示せば慎しみ肝要なり。

◎待人、走人、失物 此爻既済の道全きを得て、運氣盛大の象なるは、待人來り、走人判明し、失物出づる象なり。尙變卦明夷となるより見て、走人何所かに潜伏し居り、失物何かの下に埋れ居る象なり。上坎は北、變坤は西南、その方角を尋ねべし。

◎旅立 此爻既済安泰の時中を過ぎて、運氣衰退の兆ある時なれば、出てざるを吉とす。  
◎爭争 此爻字誠を守り、驕慢を戒むる時なれば、戒慎して争はざるを利とす。

◎就職、試験 此爻既済の道全きを得て、氣運盛大の象なるは、就職成就し、試験好成绩を得る象なるも、爻意より見て、驕慢安佚に流れて失職し、試験次回に不成績を招く憂ひあれば戒慎を要す。  
◎開業、轉業、移轉 此爻字誠を守ること肝要なる時なれば、何れも妄進せざる様慎しむべし。  
◎天候 此爻陽剛中正を得るは、天氣良好の象なるも、既済中を過ぎて亂るゝ象あり。又變卦明夷は離明坤暗に覆はるゝ象なれば、後不良となるべし。

上六 濡其首。厲。

(爻辭讀方) 其の首を濡す。厲し。

(象義) ◎「首」上爻の象。◎「濡」上卦坎水の象。◎「厲」上六陰柔を以て坎險の極に居る象。

(意義) 上六は既済の終りて、未済に移らんとする時に居り、陰柔不中を以て坎險の極に在るは、これ水を涉らんとして坎險に陥り、首を没するに至るもので、その危きことを言を俟たぬものである。故にこれを「濡其首」厲」と云つたのである。要するに此爻、物事安きこと久しければ、終に亂るゝに至る理を説き上六の象を以てこれを戒示したのである。

(占斷)

◎運勢 爻辭に「濡其首」。厲」とある如く、爻意爻象より見て、運氣極めて艱難の時にして、危険身に迫る象あれば、戒慎自重して一身の安泰を計ることが特に肝要である。

- ◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、何れも功利を遂げ難き象にて、妄進せば艱難不利に陥る憂ひあれば絶對に進むべからず。
- ◎相場 此爻陰柔を以て坎險の極に居り、その首を濡す象あるは、相場崩落する象なり。
- ◎縁談 爻辭に「濡其首。厲」とある如く、爻意爻象より見て、縁談成就せず。又凶縁の象なり。
- ◎子實 此爻陰柔不中にして坎險の極に居り、「濡其首」とあるは、兒女才徳なくして妄動し、身を過ち災禍に陥る象にて、子供運極めて不幸の象なり。妊娠此爻陰を以て正に居り、變異を長女となすは、女兒の象なり。
- ◎縁運、家庭運 爻辭に「濡其首。厲」とある如く、爻意爻象より見て、縁運家庭運共に艱難不幸甚しき象なり。
- ◎壽命、病氣 此爻陰柔不中を以て坎險の極に居り、「濡其首。厲」とあるは、虛弱短命の象にて、病氣重症にして全快の望みなき象なり。
- ◎待人 此爻河を渡りて首を没する象あるは、待人故障に遭ひて來らざる象なり。
- ◎走人、失物 爻辭に「濡其首。厲」とあるは、走人の身の上に危險ある象にて、失物出づる望みなし。而して走人は水邊を探すべし。
- ◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「濡其首。厲」とある如く、爻意爻象より見て、旅立大凶、爭事敗北就職絶望、試験不成績の象なり。

- ◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて凶なること説明の要なし。
- ◎天候 此爻陰を以て正に居り、坎險の極に居るは、天候不良の象なり。



火水未濟

未濟亨。小狐汔濟濡其尾。无攸利。

(卦辭讀方) 未濟は亨る。小狐汔ど濟らんとして其の尾を濡す。利しき攸無し。

(象 義) ◎「未濟」未濟は既濟の反對の卦で、物事の未だ濟はずして成就せざる義である。此卦離火上に在りて炎上し、坎水の下に在りて降下し、水火相交らずして用を成さざる象なれば、これを未濟と名づけたのである。而して此を既濟の次に置いた譯は、序卦傳にも「物不可窮也。故受之。以未濟終焉」とある如く、既濟も極まれば未濟に傾くに至ることが自然の理であるからであるが、それ造化の理、往きて復へらざるなく、治亂相循ひ、終れば即ち復始まるものである。それ既濟は水火相交り、功既に終る象であり、未濟は水火相交らず、造化一度休止、事物復始まる象で、生々の義である。生々即ちこれを易と云ふ易の既濟に終らずして未濟に終る所以である。

◎「小狐」坎を狐となすの象。小は初爻の象なり。◎「濡」又坎の象。  
(意 義) 未濟の卦は象義の所に於いて説明したる如く、水火相交らずして用を成さず、又男女未だ婚嫁

せざる象であるが、水火は交らずして終るものに非ず、必ず相交りて用を成すに至るものであり、男女終に孤獨に終るものに非ずして他日必ず婚嫁するに至るもので、未済の未だ済はざるものも、必ず済ふに至るべき所の理があるから、これを「未済亨」と云つたのである。然し未済の済ひて亨通するに至るは、一朝一夕のことに非ず。その亨るの時を得る爲には、これに處するの道宜しきを得ねばならぬのであつて、輕躁妄動して功を急ぐ時は、亨通の期を得ざるもので、未済に處するの道ではないのである。即ちこれを喩へて「小狐汔濟濡其尾」と云つたのであつて、その意は、老狐は奸智ありて思慮も深く、疑心強きものであるから川を涉らんとするに當つて、急ぎ焦躁ることなく、先づその深淺緩急を察して後にこれを涉る爲に、溺没する惧れがないが、小狐は思慮分別淺くして、周到の用意を盡すことなく、無暗に川を涉らんとするから、彼岸に達せんとして力盡きて、その目的を達せず、陥没してその尾を濡し、身を亡すに至るものであると云ふ意味であつて、即ち此喩へを以て未済に處するの道を教へ示したのである。而して「无攸利」と云つたのは斯くの如く未済の道に處すること宜しきを得ず、輕躁妄動に走る時は、終に未済済ふの時を得ずして、利しき攸なきことを説き示したのである。此卦の要義は、卦意の説明によつて自ら明かである通り、未済の義を説きこれに處するの道を示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦水火相交らずしてその用を成さず、物事の未だ成就せざる象である。即ち此卦を得たる時、氣未だ到らず、物事順調に運ばずして、功を遂げ難き象あるも、水火は必ず相交りてその用を成すに至る

ものであるが如く、未済の時必ず亨るの時至るものなれば、卦意に小狐の喩へを以て戒しめある如く、輕躁妄動に流れず、自重して時節を待たば、氣運開通し來りて、物事功を遂ぐるに到る望みがあるものである。

◎願望、金談、賣買 未済は未だ物事成就せざる時なれば、願望金談急に調はず。賣買順調に運ばざる象なるも、「未済亨」とある如く、終に済ひて亨通する時至るものなれば、小狐川を涉るの戒しめに従ひ、輕躁妄動を慎しみ、堅實慎重の心卦けを守りて時節を待たば、時運到來して何れも功利を遂げ得るに至る望みあり。

◎相 場 此卦未だ物事済はざるも、終に済ふ時至る象なるは、相場今安くして後上る象なり。

◎縁 談 此卦中男中女相對し、未だ婚嫁せざるも終に婚嫁するに至る象なれば、縁談長引く象あるも、結局纏るべし。又縁としても未済の義より見て、初めは故障あるも末には吉を得る縁なり。

◎子 實 卦意卦象より見て、子供運初めには辛勞艱難を見るも、後には幸福を得る象なり。妊娠此卦離の中女坎の中男の上にあるは、男兒の象なり。

◎縁運、家庭運 未済の義より見て、縁運家運共に初めは故障辛勞あるも、後には安泰幸福を得るに至る象なり。

◎壽命、病氣 此卦未だ済はざるも、終に済ふに至る象なるは、壽命上初めには病弱故障を免れざるも、後には健康を得て長壽を保ち、病氣長引くも全快を得る象なり。

◎待人、走人、失物 卦辭に「未済亨」とあれば、待人來り、走人失物判明する象なるも、未済の義より見て何れも長引くべし。上離は南、下坎は北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事、就職、試験 卦意卦象より見て、旅立急に出でず、時機を待ちて出づるを吉とし、争事長引く象あればなるべく示談の方針を以て進むを有利とし、就職急に調はざるも氣長に運動せば終に目的を達し得る象あり、試験今回は意の如き成績を得ざるも、次回は好成绩を擧げ得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦卦意卦象より見て、何れも今急に進むは不利の象なれば、用意を周到にして時節を待ちて進むを吉とす。

◎天 候 此卦物事未だ濟はず、時を得て濟ふ象なれば、今天氣不良にして後次第に晴るゝ象なり。

初六 濡其尾。吝。

(爻辭讀方) 其の尾を濡す。吝なり。

(象 義) ◎「尾」初爻の象、坎を狐となし、初爻その後にあるを以てなり。◎「濡」下卦坎水の象。

(意 義) 初六は未濟中の未濟の初めに居るものなれば、時未だ事を成し、功を收め得べき時機でなく、宜しく慎み守るべき時である。然るに初六は陰暗不才にして、然も不中不正なるものであるから、時を察せずして妄動に走るもので、これを喻へば彼の小狐が輕躁にして、水の深淺緩急を察せずしてこれを涉りその尾を濡して陥没するに至るが如きものであつて、その他より鄙しめ笑はるゝことは言を俟たずして當然のことである。故にこれを「濡其尾。吝」と云つたのである。要するに此爻、初六の象を以て、時と力とを察せずして輕躁妄動するものゝ、功を遂げず、身を亡すに至り、人の卑笑を受くることを説き示して、こ

れを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔不中正を以て未濟の初めに居り、その尾を濡し、吝を招く象あるは、才徳なくして時勢を察せず、輕躁妄動して失敗を招き、その身を亡すに至る象であるから、大いに戒慎すべきである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「濡其尾。吝」とある如く、爻意爻象より見て、才徳實力なき身を以て、時運を察せずして妄進し、小狐の水に溺るゝが如く、何れも失敗不利を招きて、困苦に陥る象なれば、先づ才徳實力の充實に努め、戒慎して時節を待つべし。

◎相場 此爻陰柔を以て未濟の最下に居り、小狐の陥没する象あるは、相場今安く、先行き尙一段崩落する象なり。

◎縁 談 爻辭に「濡其尾。吝」とある如く、此爻小狐陥没して水を渉るの目的を達せざる象なるは、縁談纏らず、又凶縁の象なり。宜しく中止して將來の良縁を待つべし。

◎子 實 此爻陰柔不中正にして未濟の初めに居り、小狐の陥没して吝を招く象なるは、暗愚不才にして然も身の程を知らず、妄進して身を過ち、人の卑しめと笑を招くに至る兒女を持ち、辛勞多く不幸の象なり。姪姪此爻陰柔にして變體兒を少女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 此爻陰柔不中正を以て最下に居り、吝を招く象なるは、男女共に才力なく暗愚輕躁なる連合ひに添ひ、不幸辛勞を見る象なり。

◎家庭運 此爻未濟中の未濟の初めに居るは、家道濟はずして苦情多き家に生れ、不幸辛勞を見る象にて、然も陰柔不中正なるは、これに善處する才徳なく、輕舉妄動して、小狐の水に陥没する象あるが如く、益家運を亂して艱難辛勞に陥る象なれば、猛省する所あるべし。

◎壽命、病氣 此爻陰柔不中正にして未濟の初めに居り、輕躁妄動の象あるは、體質虛弱にして然も攝生養生を缺く象にて、「濡其尾」各」とある如く、短命に終り、病氣全快の望みなき象なり。宜しく大いに戒慎すべし。

◎待人、走人、失物 爻辭に「濡其尾」各」とある如く、此爻小狐陥没して水を渉る目的を達せざる象なるは、待人故障に遭遇して來らず、走人の身の上に危険あり、失物出でざる象なり。下坎は北、變兌は西、その方角にて水邊を尋ね見るべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 此爻才徳なくして、時運を察せずして輕躁妄動し、その尾を濡し、吝を招くもの、旅立出でて災難に遭遇し、爭事輕舉妄争して敗れ、就職望みなく、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻時運を察せずして輕躁妄進し、その尾を濡し吝を招くもの、何れも機運に反して妄進し、失敗災害を招く象なれば、中止すべし。

◎天候 此爻陰柔不中正を以て、物事未だ濟はざる未濟の初めに居るもの、天氣不良の象なり。

九 一 一 曳其輪。貞吉。

(爻辭讀方) 其の輪を曳く。貞にして吉なり。

(象義) ◎「曳其輪」坎を輪となし、又曳くとなす。九二約象坎の後に在るは、即ち其輪を曳く象なり。◎「貞吉」九二剛中を得たる象、又離明の象。

(意義) 九二は未濟中の未濟の最中の時に居り、且その身は内卦坎險の主となつて居るものであるから未だ輕々しく進むべき時でない。而して、九二は剛にして中を得て居るから、進むべき力はあるものであるが、その剛中の徳ある爲に、能くその時運を知りて輕進せざるものである。これを喻へて云へば、車の輪を後より曳止めて進行せしめざるが如きものである。故にこれを「曳其輪」と云つたのであるが、九二が斯くの如きは、貞正にして吉なるものである。故にこれを「貞吉」と云つたのである。要するに此爻、九二の象を以て、時運を知りて、真正にして輕躁妄進せざるもの、吉を得べきことを示したのである。

(占斷)

◎運勢 此爻未濟の最中に居り、坎險の主たるは、運氣艱難の象であるが、剛中の才徳ある爲に、輕躁妄進せずして「貞吉」を得る象なるは、剛實にして明德を備へ、能く時運を知りて輕舉妄動せざる爲に、艱を脱して吉運安泰を得るに至る象である。

◎願望、金談、賣買 此爻未濟の最中に居り、坎險の中に陥れるは、何れも時運を得ずして進むべき時に非ざること示す。宜しく九二が剛中の徳ありて「貞吉」を得るが如く、時運を悟りて輕舉妄進せず、時節の到來を待つ心掛け肝要なり。

◎相場 此爻陽剛なるは相場底意強き象なるも、未済の最中に居り、坎險の中に陥れるは、未だ相場伸びざる象なり。然し變卦晉は太陽地上を照らす象にて、上り進む義なれば、先行き上るべし。

◎縁談 此爻未済の最中に居り、坎險の主となりて、輕進を戒しむるの時なれば、縁談輕卒に進まざるを吉とす。「貞吉」とあれば、自重して時節を待たば、良縁到るべし。

◎子實 此爻剛中の徳を備へ、時運を知りて輕進妄動せず、「貞吉」の象あるは、實實にして明敏なる兒女を得て、末に幸福を得る象なり。姪姪此爻陽剛にて、中男の象坎の主たるは、男兒なり。

◎縁運 此爻剛中の徳ありて、輕躁妄進せざる爲に、「貞吉」を得るは、男女共求縁上慎重の態度を守る爲に、縁運吉祥幸福を得る象なり。然し未済の最中に居り、坎險の主たる象より見て、初めには多少辛勞を免れず。

◎家庭運 此爻未済中の未済の最中に居り、坎險の主たるは、初め家運振はずして艱難を見る象なるも、剛中にして「貞吉」を得るは、堅實にして才徳を備ふる爲に、能く身を立て、家運を興して、後には幸福を得るに至る象なり。

◎壽命、病氣 亦此爻未済の最中に居り、坎險の中に陥るは、健康上初めには故障を免れず、病氣重態の象なるも、剛中にして「貞正」を得るは、體質強健なる上に、攝生養生よき爲に、健康を得て長壽を保ち、病氣全快を見る象なり。

◎待人 此爻車を曳止めて進行せしめざる象あるは、妨ぐる者ある爲に、待人來り難き象なり。

◎走人、失物 爻辭に「曳其輪」とあるは後より曳止むる者あつて、車の進行を得ざる象なれば、走人故障ありて高飛びすることを得ず、失物外に出てざる象なり。而して「貞吉」とあれば、根氣よく探さば何れも判明すべし。下坎は北、變坤は西南、その方角を尋ぬべし。又此爻坎中に陥れるより見て、走人何所かに潜伏し居り、失物何かの中に入り居るか、何所かへ陥り居る象なり。

◎旅立 此爻輕躁妄進を戒しむるもの、何れも妄進するは不利なる時なれば、宜しく九二が剛中にして「貞吉」を得る如く、自重して進まざるを吉とす。

◎就職、試験 此爻未済の最中に居り、坎險の中に陥りて、時運を得ざるもの、就職急に調はず、試験意の如き成績を得ざる象なり。然し九二が剛中にして「貞吉」を得るが如く、自重努力して時節を待たば、就職成就し、試験好成绩を得るに至る望みある象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻輕躁妄動を慎しむべき時なれば、「貞吉」とある如く、何れも自重して進むべからず◎天候 此爻未済の最中に居り、坎險の中に陥るは、天氣不良の象なるも、剛中を得變卦晉は太陽地上を照す象なれば、後良好に向ふ象なり。

六 二 未濟征凶。利涉大川。

(爻辭讀方) 未濟征くときは凶なり。大川を渉るに利し。

(象 義) ◎「未濟」此爻内卦坎險の極に居り、未済中の未済の極に當るものなる故、特に未済と云へる

なり。◎「大川」坎の象。◎「涉」互體離を舟となし、約象坎を川となす。即ち渉る象なり。

(意 義) 六三は陰柔不中正を以て内卦坎險の極に居り、未濟中の未濟の極に當るものである。これ進みて事を成すべき時でなく、若し強ひて進まば、時を犯すが故に凶を招くに至るものである。故に「未濟征凶」と云つてこれを戒しめたのである。然し内卦の未濟中の未濟將に終らんとして、外卦の未濟中の既済に移らんとする時であり、又坎險の極に居るは、將に險を出でんとする時である。而して上九應爻の助けがあり、又能く未濟の時を濟ふ剛中九二に比して居るから、その助けを得て進み行かば、大川を渉るの難を犯して利しきを得るものである。即ちこれを「利涉大川」と云つたのであつて、蓋し「征凶」と云へるは時勢を以て云ひ、「利涉大川」と云へるは道理を以て論じたのである。要するに此爻、六三の象を以て、未濟に處するの道を説き示したのである。

因ちよみに云ふ。六三の爻辭、「征凶」と云ひ、又一方に於いて「利涉大川」と云つてあるのは、兩者矛盾して居つて理に合はぬ所があるから、「利涉大川」と云ふは、「不利涉大川」とあるのが正しいと主張する人があり、一理ある説であるが、暫く後考を待ち、今は爻辭その儘を以て解釋することにした。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔不中正を以て坎險の極に居り、爻辭に「征凶」とあるは、時運を得ず、然も才力を缺く象にして妄進を戒しむべき時なれば、自重戒心して妄動せざることが肝要である。然し又「利涉大川」とある如く、内外變轉の際に居るものなれば、氣運の變を察し、上九、九二の如き孚まことあり、才徳ある者の助け

を得て、機運に乗じて進まば功を遂げ得る望みがある。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「征凶」とある如く、爻意爻象より見て、何れも進みて功利を遂げ難き象なり。然し又「利涉大川」とあるは、氣運の變轉を察して進まば功利を得る象あり。

◎相 場 此爻陰柔を以て坎險の極に居るは、相場安き象なり。

◎縁 談 爻辭に「征凶」とあるは、縁談纏らず、又凶縁の象なり。

◎子 實 此爻陰柔不中正なるは、才徳乏しき兒女を持ち、「征凶」とある如く、子供運不幸の象なり。妊娠此爻陰柔にして變異を長女となすは、女兒なり。

◎縁運、家庭運 此爻陰柔不中正を以て、坎險の極に居るは、縁運家庭運共に不幸艱難の象なり。然し未濟中の未濟、未濟中の既済に移らんとする時なれば、末には幸福を得るに至る望みあり。

◎壽命、病氣 爻辭に「征凶」とある如く、此爻陰柔不中正を以て險坎の極に居るは、病弱にして長壽を保ち得ず病氣重態にして回復の望みなき象なり。

◎待人、走人、失物 亦爻辭に「征凶」とある如く、爻意爻象より見て、氣運艱難不通の時なれば、待人來らず、走人身の上に危難あるか判明せず、失物出て難き象なり。下坎は北、變異は東南、その方角を尋ねべし、

◎旅 立 爻辭に「征凶」とあるは出て、凶の象なるも、「利涉大川」とあれば、水路の旅行は出て、宜し

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「征凶」とあるは何れも進むは凶の象なり。

◎天候 此爻陰柔不中正を以て、坎險に居るは、天候不良の象なり。

九 四 貞吉。悔亡。震用伐鬼方。三年有賞于大國。

(爻辭讀方) 貞にして吉。悔亡。震つて用て鬼方を伐つ。三年にして大國に賞せらるゝことあり。

(象 義) ◎「震」九四變すれば互體震となるの象。◎「鬼方」北夷なり。坎の象。◎「伐」震の象。又坎を刑となすの象。◎「三年」上卦三爻の象。◎「大國」大君の意、六五君位の象。又九四變じて約象坤となるの象。◎「有賞」離の慶福となすの象。

(意 義) 九四は陽を以て陰に居り、位を得て居らぬから、悔あるべきものであるが、陽剛を以て、離明に體し、六五の尊きに比し、未濟中の未濟を過ぎて、未濟中の既濟に移らんとし、内卦の坎險を出づるものである。これ位正を履まざるも、志真正にありて堅固なるものである。故に吉を得て悔亡ぶるものである。即ちこれを「貞吉。悔亡」と云つたのである。而して九四は近君宰相の位に居り、時運變革の時に居るものであるから、その剛明の資を以て北夷外敵を伐ち、その威武を以て内を治め、天下の治功を收めねばならぬものである。故にこれを「震用伐鬼方」と云つたのであるが、その鬼方を伐ちて天下の治平を致すことは極めて難事であつて、一朝一夕に功を遂げ得べきものではなく、三年の久しきに及びて始めてその功成りて大君に賞せらるゝに至るものである。即ちこれを「三年有賞于大國」と云つたのである。要するに此爻、九四が剛明の徳を以て未濟變革の時を濟ふことを説き、未濟に處するの道を示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻未濟變革の時に當り、剛明を以て宰相の位に居り、能くこれを濟ひて、「貞吉。悔亡。震用伐鬼方」。三年有賞于大國」とあるは、艱難の時に當りて人の上に立ち、才力を備へて能くこれを打開し、功を遂げ名を揚げて、運氣の盛大を示す象である。

◎願望、金談、賣買 爻意象 に見て、何れも困難なることを示すも、鬼方を伐ちて大君に賞せらるゝ象あるが如く、剛明の資、能く困難を排して功利を遂げ得るに至る象なり。

◎相 場 此爻陽剛を以て宰相の位に居るは、相場今高き象なるも、未濟變革の時にして、變卦蒙となるより見て、先行き氣迷ひの形勢を示す象なり。

◎縁 談 此爻鬼方を伐ちて、功を遂ぐるること三年の久しきに及ぶ象なるは、縁談結局成立する象なるも、故障ありて纏る迄に時日を要する象なり。縁としては、「貞吉。悔亡」とあれば、初めは稍故障あるも、末は吉の縁なり。

◎子 實 此爻剛明にして、鬼方を伐ちて天下の治功を遂げ、大君に賞せらるゝ象あるは、兒女の剛氣にして明智を備へ、大いに成功を克ち得る象にて幸福を得る象なるも、「悔亡」とあるは、初めには多少の辛勞を免れざる象なり。妊娠此爻陽剛を以て宰相の位に居り、變良を少男となすは、男兒なり。

◎縁 運 爻辭に「貞吉。悔亡」とあるは、初めには縁運上故障苦勞を免れざるも、貞固の志ある爲に、後には安泰幸福を得るに至る象なり。



◎家庭運 此爻未濟變革の時に居るは家運變轉の期に生れ、苦勞を嘗むる象なるも、剛明にして天下の治功を遂げ、大君に賞せらるゝ象あるは、剛氣明智にして能くこれに善處し、身を立て家を興して、盛大幸福を得るに至る象なり。

◎壽命、病氣 爻辭に「貞吉。悔亡」とある如く、爻意爻象より見て、初めは健康上故障あり、病氣相當重症の象なるも、氣力強く、堅忍の精神ありて、攝生養生に努むる爲に、健康を克ち得て長壽を保ち、病氣全快を得る象なり。

◎待 人 爻意爻象より見て、長引くも來るべし。

◎走人、失物 爻辭に「貞吉。悔亡」とあるは、根氣よく探す爲に、終に判明する象なり。然し爻意より見て時日を要すべし。上離は南、變長は東北、その方角を尋ぬべし。

◎旅 立 爻辭に「貞吉。悔亡」とあるは、多少の故障辛勞ある象なるも、出てゝ吉なる象なり。

◎爭事 就職、試験 爻辭に「伐鬼方。三年有賞于大國」とあるは、爭事困難ありて長引くも終に勝利を得、就職亦困難あるも終に成就し、試験能く難關を突破して優秀の成績を擧ぐる象なり。

◎開 業 爻意爻象より見て、進みて吉なるも、「三年有賞于大國」とある如く、成功迄に困難多く、長時日を要する象なれば、九四が剛明貞固にして吉を得る如く、堅忍不拔の精神と、常に機を見るの明を養ふ心掛け肝要なり。

◎轉業、移轉 此爻未濟變革の時に居るは、轉換の氣運に遭遇せる象なり。九四剛明の德に鑑みて進退を過

らざる様心掛くれば、「貞吉」とある如く、轉じて吉を得べし。

◎天 候 此爻陽剛を以て離明に體するは、今天氣良好の象なるも、未濟變革の時にして、變卦蒙となるより見て後不良となる象なり。

### 六 五 貞吉无悔。君子之光，有孚。吉。

(爻辭讀方) 貞なれば吉にして悔無し。君子の光、孚有り。吉なり。

(象 義) ◎「君子」六五柔中を以て君位に在るの象。◎「光」盛徳の意なり。離の象。◎「孚」離體中虚の象。又六五陰爻にして中虚の象。

(意 義) 六五は柔中の徳を備へて離明の主となつて居るもので、これ真正にして、吉を得て悔なきものである。故にこれを「貞吉无悔」と云つたのであるが、これを无悔と云ふは、六五は未濟の主で、未濟中の既濟を得たる時であるから、九四の悔にぶるものよりも時運の一段進んだものであるからである。斯くの如く六五は柔中の徳を備へ、真正にして吉なる上に、九四の宰相とは陰陽相親比し、九二の大臣とは陰陽相應じて居る。これ、能く心を虚しくして賢良の臣に任じ、天下未濟の險難を濟ひて文明安泰の世となすもので、盛徳ある明君である。故にこれを「君子之光。有孚。吉」と云つたのである。要するに此爻、六五の徳を讚美したもので、これ聖徳高き君主に當るものである。

(占 斷)

◎運勢 此爻柔中の徳を備へて離明の主となり、天下未済の險を救ふ明君の象である。即ち此爻を得たる時、才徳豊かにして人の上に立ち、能く賢良の士を用ゐて諸事功を遂げ、衆望を得て運氣盛大の象である。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、何れも順調に運びて功利を遂げ得る象なり。

◎相場 此爻君位の高きに居り、運氣盛大の象なるは、相場高き象なり。而して變卦訟となるより見て、先行き波瀾あるべし。

◎縁談 爻意爻象より見て、良縁にして纏ること説明の要なし。

◎子實 此爻柔中の徳を備へて尊位に居り、離明の主となりて未済の險を救ふの象あるは、才徳を兼備して大成功を得る兒女を持ち、幸福大なる象なり。妊娠此爻陰を以て中女の象離の主たるは、女兒なり。

◎縁運 爻辭に「貞吉无悔」とあるは、男女共に縁運人に優れて吉祥幸福なる象なり。

◎家庭運 此爻尊位に在るは富貴の家に生れて幸福の象にて、然も天下救治の明君の象あるは、才徳人に優れて立身し、益家運を盛大ならしむる象なり。

◎壽命、病氣 爻辭に「貞吉无悔」とある如く、爻意爻象より見て、健康長壽にして、病氣全快疑ひなき象なり。

◎待人、走人、失物 亦爻意爻象より見て、待人來り、走人失物直に判明する象なり。上離は南、變乾は西北その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「貞吉无悔。君子之光。有孚。吉」とある如く、此爻才徳を兼備し、

天下の險を救ひて、聖徳宏大、運氣豊盛の象あるは、旅立大吉、爭事大勝、就職成就、試験優秀の成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて吉なり。

◎天候 此爻離明の主にして、君子の光天下に普き象あるは、天氣良好の象なり。

上九 有孚于飲酒。无咎。濡其首。有孚失是。

(爻辭讀方) 飲酒に孚有り。咎無し。其の首を濡さば、孚有れども是れを失はん。

(象意) ◎「孚」離の中虚の象 ◎「飲酒」宴樂の意、坎の象。◎「濡」亦坎の象。◎「首」上爻の象 ◎「是」昔日の實功を云ふ。

(意義) 未済の時上九に至れば、未済整ひて既済の安泰に反る時である。故にその未済の險を救ひて今日の功を遂げたることを祝し悦びて、飲酒宴樂することは、誠心の發露であつて咎なき所である。故にこれを「有孚于飲酒。无咎」と云つたのである。然しその宴樂すること度を過ぎてこれに耽溺し、恰も小狐が水を涉りて陷溺し、その首を濡すが如きに至らば、假令誠心の發露から感激の極茲に至つたものであつても、その道を失ふに至れるもので、折角未済の險を救ひて既済に反へらしめた昔日の實功も、これを亡失して再び未済の險に反り、功業を水泡に歸せしむるに至るものである。故にこれを「濡其首。有孚失是」と云つて深く戒しめたのである。要するに此爻、上九の象を以て、宴樂その度を失するもの、凶を招くこと

を説き示しめてこれを戒しめたのであるが、唯に飲酒宴樂のこのみならず、悅樂に溺るゝことの凶なることを悟るべきである。又此爻の義、難事を排除してその功を遂げたるものゝ、安佚に流れ易き弊あることを示し、これを戒しむるの義をも見るべきである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻未濟の險過ぎて茲に濟ひ、既濟に反へるの時である。即ち此爻を得たる時、艱難を経て大事を遂げ、安泰和樂を得るに至れる象である。然し「濡其首、有孚失是」と戒しめある如く、斯くの如き時に當りては、悅樂度を失し、安佚に流れて折角の功を失ふに至る憂ひあるものなれば、心を引締めて悅樂度を失せず、安佚遊惰に流れずして、折角の功業を全うする心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賈買 爻意爻象より見て、何れも功利を遂げて悦びを得る象なるも、その爲に心に緩みを生じて、折角の功を失ふに至る憂ひあれば慎しみ肝要なり。

◎相 場 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、相場上れる象なるも、「濡其首、有孚失是」とあり、變卦解となるより見て、反動崩落を示す兆あれば警戒を要す。

◎縁 談 此爻未濟終りて既濟に反らんとし、宴樂の象あるは、縁談纏る象なり。而して縁としても、爻意より見て吉縁なるも、情愛過ぎて夫婦間弛緩を生じ、圓滿幸福を破るに至る憂ひあれば慎しみを要す。

◎子 實 此爻未濟の險終りて、既濟の安泰に反るは、兒女養育の功を遂げ、初めには苦勞あるも末には幸福を得るに至る象なり。然し爻意に戒しむる如く、情愛に溺れ、又子供に頼り過ぎて幸福を破らざる心掛け

肝要なり。妊娠此爻陽剛にして、變體震を長男をなすは、男兒なり。

◎縁運、家庭運 此爻未濟の險終りて既濟の安泰に反へる象なるは、縁運家庭運共に初め辛勞艱難あるも、末には能くこれを脱して幸福を得るに至る象なり。然し「濡其首、有孚失是」と戒しめある如く、夫婦間の情愛を過ぎ禮を失して却て亂れを招き、家運安泰に至れる爲に心に緩みを生じ、安佚遊惰に流れて、折角礎き上げし幸福を失ふに至る憂ひあれば慎しみ肝要なり。

◎壽 命 爻辭に「濡其首、有孚失是」とある如く、情慾に溺れて健康を損じ、壽を保たざる象あれば攝生肝要にして、特に酒色を慎しむべし。此注意を守らば、爻意爻象より見て、初めは健康に故障を免れざるも、能く健康を回復して長壽を保ち得べし。

◎病 氣 此爻未濟の險終りて、既濟の安泰に反らんとする象なるは、病勢回復に向へる象なり。然し「濡其首、有孚失是」とあるは、油斷に流れて養生を欠き、折角回復に向へるものを、逆轉惡化せしむる憂ひあれば、戒慎を要す。

◎待人、走人、失物 此爻和樂の象あるは、待人來り、走人失物判明して悦びを得る象なり。上離は南、變震は東、その方角を尋ねべし。尙卦極の高きに在るは、失物高所にある象なり。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「有孚于飯酒。无咎」とある如く、爻意爻象より見て、旅立目的を遂げ、爭事勝利を得、就職調ひ、試験好成绩を得て悦びを見る象なり。然し「濡其首、有孚失是」と戒しめある如く、悦びに溺れ、心に緩みを生じて、折角の功を失ふに至る憂ひあれば、慎しみ肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻未濟の險、既濟の安泰に移る時なれば、何れも進みて吉なり。然し何れも進み轉じたる後に於いて、心身の緊張を忘れず、努力を怠らざる心掛け肝要なり。

◎天 候 此爻未濟の時終りて、既濟の時に移るは、不良の天候良好に向ふ象なり。

實用 易學講義錄 終

占筮法講義補追

中筮法及本筮法に於ける占斷應用法の説明

會員諸士より講義録に關する質疑が、日々参りますので、その都度個人的に應答して居りますが、それ等の質疑中  
中筮法及本筮法に於ける占斷應用法に就いては、占筮法講義の篇中、説明の足らなかつた點があると思ひますので  
茲に補追として説明することに致します。

中筮法及本筮法は、略筮法が唯一爻のみ變ずるのと違つて、一爻だけが變ずることもあれば、數爻又は全爻が變ずることもあり、又不變の場合もあるから、講義録中の各爻の占斷を、直に應用することが出来ない譯である。故に次に實例を以て、その應用法を解り易く説明することにします。

實例一 一爻のみが變じたる場合

中筮法又は本筮法によりて本卦を得、その一爻だけが變じた場合、例へば本卦に水雷屯を得て、五爻だけが老陽で、他の爻は皆小陰又は小陽であつた場合は、五爻だけが變じて他の各爻は變ぜぬ譯であるから、之卦乃ち變卦は地雷復となる譯である。依つてこれを占斷に應用するに當つては、本卦の屯と變卦の復とを對照して占斷を下すのである。即ち願望の占斷に應用するとすれば、屯の卦の占斷の願望の項と、復の卦の占

断の願望の項と説明を合せ考へて、占断を下せば良いのであつて、屯に於ては初め故障艱難あるも忍耐努力すれば、遂に成就する象であり、復に於ては一陽來復、漸次吉運に向ふ象であるから、即ち願望は初め故障困難あるも、忍耐努力して進めば、結局は成就するに至るものと占断を下せば良いのである。その他、運勢、金談、賣買等、凡ての事項は、これに準じて占断を下せば良い譯である。

實例二 數爻又は全爻の變じたる場合

實例の第二として、中筮法又は本筮法によりて、本卦に水天需を得、二爻が老陽、上爻が老陰であり、他の諸爻は小陽或は小陰であつた場合は、二、上兩爻が變じて他の諸爻は變ぜぬ譯であるから、變卦は風火家人となる譯である、依つて本卦需と變卦家人とを對照して占断を下すべきであつて、例へばこれによつて縁談を占断するとすれば、需の卦に於いては結局は纏る望みあるも、經過に於いて故障ありて行惱む象があり家人は順調に纏る象であるから、行惱む程度が少なく割合順調に纏ると占断を下すべきであつて、縁として初めは故障あるも後には平和圓滿を得る幸福の縁と占断を下すべきである。その他運勢、願望、金談等凡ての事項も、これに準じて占断を下せば良いのである。

又卦中の三爻四爻、或は六爻全部が老陽或は老陰となつて、これが變じた場合も、右の例に準じて占断を應用すれば良いのであつて、例へば需の卦に於いて、初爻と三爻とが老陽で、四爻と上爻とが老陰であつた場合には、變卦は天水訟となる譯であるから、需と訟との卦を對照して占断を下せば良いのであり、若し六

爻全部が老陽或は老陰となつた場合は、全爻が變じて變卦は火地晋となることになるから、即ち需と晋との卦を對照して占断を下せばよいのである。

實例三 全爻不變の場合

全爻不變の場合とは、全爻中老陽又は老陰の爻が一つもなく、凡てが少陽又は少陰であつた場合で、此場合は變爻がなく、従つて本卦だけで變卦がない譯である。此不變の場合は極めて簡單であつて、本卦だけで占断を下せば良い。例へば水地比の不變を得たとすれば、比の卦の占断の項の説明を、その儘應用すれば良いのである。

占筮法講義補追終

— 易學講義錄 第七卷 —

非賣品

昭和八年八月一日印刷  
昭和八年八月五日發行

版權  
所有

著者兼  
發行者

東京市本郷區動坂町六三番地  
神 山 五 黃

印刷者

東京市中野區沼袋南二丁目一五番地  
日 本 印 刷 學 校  
衣 笠 道 夫

發行所

東京市本郷區動坂町六三番地  
神 山 易 學 會

電話小石川六三八八番  
振替東京五一九三四番

終

